

くらしと健康の調査

－コロナ禍における保健福祉に関する調査－

報告書

(一般区民調査)

令和5年(2023年)3月

港区

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

目 次

第1章 調査の実施概要	1
1 調査目的	2
2 調査対象・抽出条件	2
3 調査方法・期間	2
4 回収結果	2
5 調査内容	3
6 標本誤差	4
7 報告書の見方	4
第2章 主な調査結果のまとめ	5
1 健診・がん検診の受診状況と啓発	8
2 感染症全般に関する情報発信と普及啓発	11
3 DVの被害状況と相談窓口の認知度	12
4 虐待通告の活用意識	13
5 里親制度の認知度と意識	15
6 ひきこもりの実態と相談先の認知度	17
7 コロナ禍における経済面の変化	18
8 地域福祉活動への参加に関する実態と意識	19
9 福祉総合窓口への期待やニーズ	21
第3章 集計結果	23
1 一般区民を対象とした調査の集計結果	24
第4章 調査票	57
1 調査票	58

第1章 調査の実施概要

1 調査目的

本調査は、港区における高齢者、障害者、一般区民の新型コロナウイルス感染症感染拡大による社会変化後の課題や区民ニーズ、実態を的確に把握することを目的とします。

なお、得られた調査結果については、令和5年度に予定している「港区地域保健福祉計画」等の改定のための基礎資料とします。

2 調査対象・抽出条件

調査名称	調査対象者	抽出条件
一般区民	令和4年6月1日時点の、港区在住の15歳以上65歳未満の区民	無作為抽出

3 調査方法・期間

- 1 調査方法 郵送により配布、郵送又はWEBにより回収
- 2 調査期間 令和4年7月28日（木）～8月19日（金）

4 回収結果

調査名称	配付数	有効回答数	有効回答率
一般区民	3,000件	941件 (内訳) ・ 郵送 446件 ・ インターネット 495件	31.4%

5 調査内容

調査名称	調査内容
一般区民	<ol style="list-style-type: none">1 回答者について2 健康づくりについて3 かかりつけ医について4 休日・夜間診療体制について5 感染症について6 ドメスティックバイオレンス（DV）について7 児童虐待について8 里親制度について9 ひきこもりについて10 コロナ禍における経済面の変化について11 地域活動・社会活動について12 地域包括ケアについて

6 標本誤差

標本誤差は、以下の式で得られ、比率算出の基数、回答の比率によって誤差範囲が異なります。回答比率は、ある設問の1つの選択肢に対して得られた回答者の割合です。定数 1.96 は、信頼率 95%と設定した場合の定数です。

$$\text{標本誤差} = \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \times 1.96$$

N：母集団数、n：サンプル数（有効回答数）、p：回答比率

この計算式に従って算出される本調査の標本誤差は以下のとおりです。

調査名称	母集団 (N)	有効 回答数 (n)	90% または 10%程度	80% または 20%程度	70% または 30%程度	60% または 40%程度	50%程度
一般区民	174,324	941	±1.91%	±2.55%	±2.92%	±3.12%	±3.19%

7 報告書の見方

- 1 図表内のnとは該当の設問における回答者数のことです。
- 2 集計は小数点第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100.0%にならない場合があります。
- 3 複数回答が可能な設問の場合、一つひとつの項目の回答比率(%)は、項目を選んだ回答者数を分子、その設問の回答者数を分母として算出しているため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- 4 本文や図表内の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化しています。

第2章 主な調査結果のまとめ

一般区民調査のねらい

本調査は、次の課題とねらいを踏まえて設問を設計しました。この章では、そのねらいに応じた結果と、令和5年度に予定している「港区地域保健福祉計画」等の改定に向けて特に一般区民に関する特徴的な結果を9つのトピックで整理しました。

(1) 子ども・子育て分野

課題	<ul style="list-style-type: none">○ コロナ禍において、在宅時間が増えるなど、生活環境が変化し、ドメスティックバイオレンス（以下「DV」という。）が増えたと言われています。DV被害者が、保護や自立に向けて、適切な相談窓口につながれているか（知られているか）、把握する必要があります。○ 区の児童相談所は開設2年目を迎え、併設の子ども家庭支援センターや地域の関係機関と連携し、迅速かつきめ細やかな支援により、児童虐待防止対策の一層の強化が必要です。○ また、家庭養育体制の充実に向けて、里親の新規開拓のための区民への効果的な制度の周知や、里親支援の取組が課題となっています。
ねらい	<ul style="list-style-type: none">○ 本人だけではなく、家族や友人がDV被害を受けた場合、適切な相談窓口にご相談できているか、区民のDVに関する相談窓口の浸透状況を把握します。○ 虐待通告における港区児童虐待相談ダイヤルの活用意識や里親制度の認知度、里親となることの意識度を把握、分析することで、実効性の高い啓発や促進策の展開に繋がります。

(2) 健康づくり・保健分野

課題	<ul style="list-style-type: none">○ 新型コロナウイルス感染症については、国や都の方針により、療養期間や濃厚接触の取扱い等が変更されることが多く、区ホームページやリーフレットにより迅速にかつ正確な情報発信が求められています。○ 感染拡大に伴い、全国的に健康診査・がん検診の受診控えが指摘されています。○ 健康診査、がん検診の受診を見送ると早期発見することができなかつた異常やがんが進行した後に発見され早期治療できなくなります。
ねらい	<ul style="list-style-type: none">○ 新型コロナウイルス感染症を含む感染症全般に関する情報について、どのような情報媒体から収集しているかを把握、分析することで、既存の普及啓発方法の充実に繋がるとともに、今後の感染症に関する情報発信施策等に反映します。○ コロナ禍における健診・がん検診の受診行動を調査し、区民の意識に受診控えが認められる場合、効果的な啓発方法を検討し事業に反映します。

(3) 生活福祉分野

課題	<ul style="list-style-type: none">○ コロナ禍における、外出自粛等の影響によるひきこもりの状態の方の増加の有無、または、そのニーズの把握が必要です。
ねらい	<ul style="list-style-type: none">○ ひきこもりの実態とその相談先の認知度について調査し、今後の施策を検討します。また、コロナ禍における経済面での変化の実態を把握します。

(4) 地域福祉分野

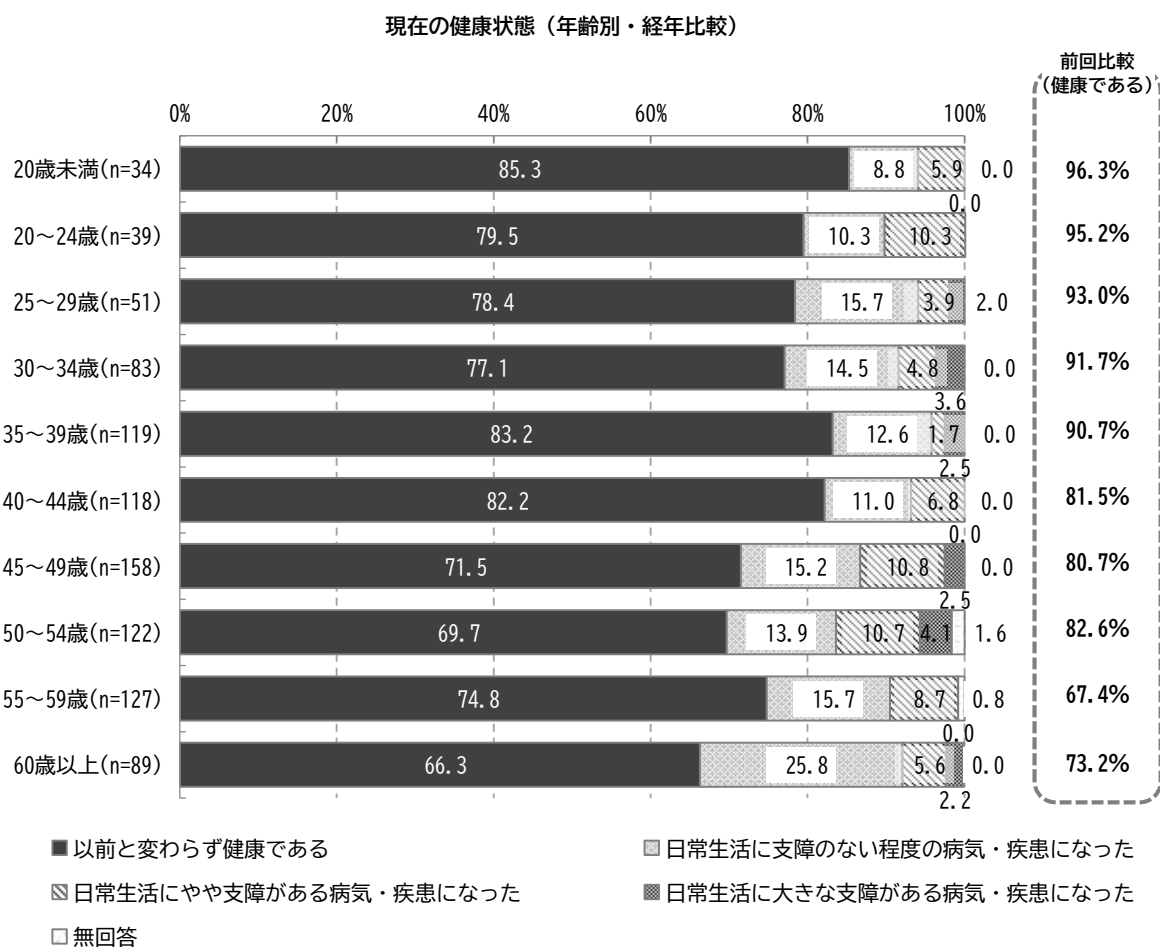
課題	<ul style="list-style-type: none">○ 地域包括ケアの更なる推進に向け、福祉総合窓口を効果的に機能させていくために、福祉や医療の関係機関との連携強化が必要です。また、地域で活動する団体等と福祉活動を担う人材の発掘などを含めた情報の共有も必要となってきます。
ねらい	<ul style="list-style-type: none">○ 一般区民に向け、福祉総合窓口への期待やニーズ、福祉・医療等に関する情報収集方法の実態、地域で活動する団体の情報収集や活動への参加などに関する意識等を的確に把握することにより、実効性の高い施策展開に繋がります。

1 健診・がん検診の受診状況と啓発

- 年代が高くなるほど、コロナ前と比べた健康度合いが低くなっている
- コロナ禍で感染を懸念した受診控えが起こっており、「医療機関で健診専用時間を設ける」などの支援が求められている

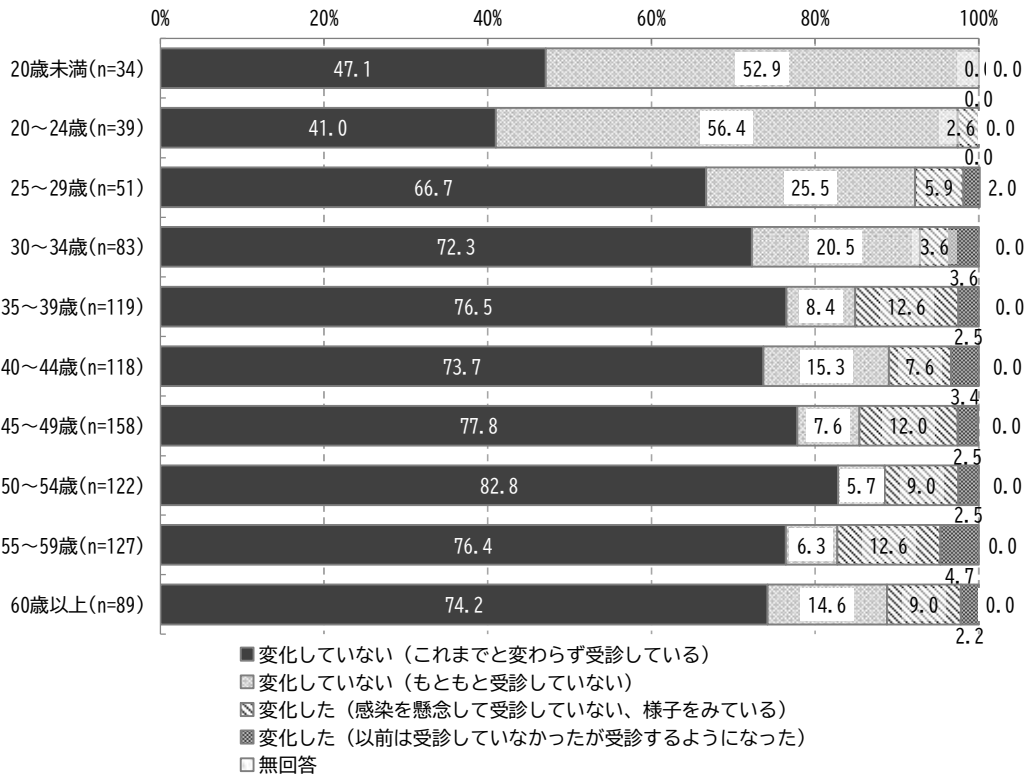
現在の健康状態について、年齢別にみると、年代が高くなるほど、コロナ前と比べた健康度合いが低くなっている傾向がみられます。

また、経年比較を行ったところ、「健康である」と回答している人は特に34歳以下の若い世代で減少している傾向がみられることから、若い世代についても健康への懸念が高くなっていることがうかがえます。



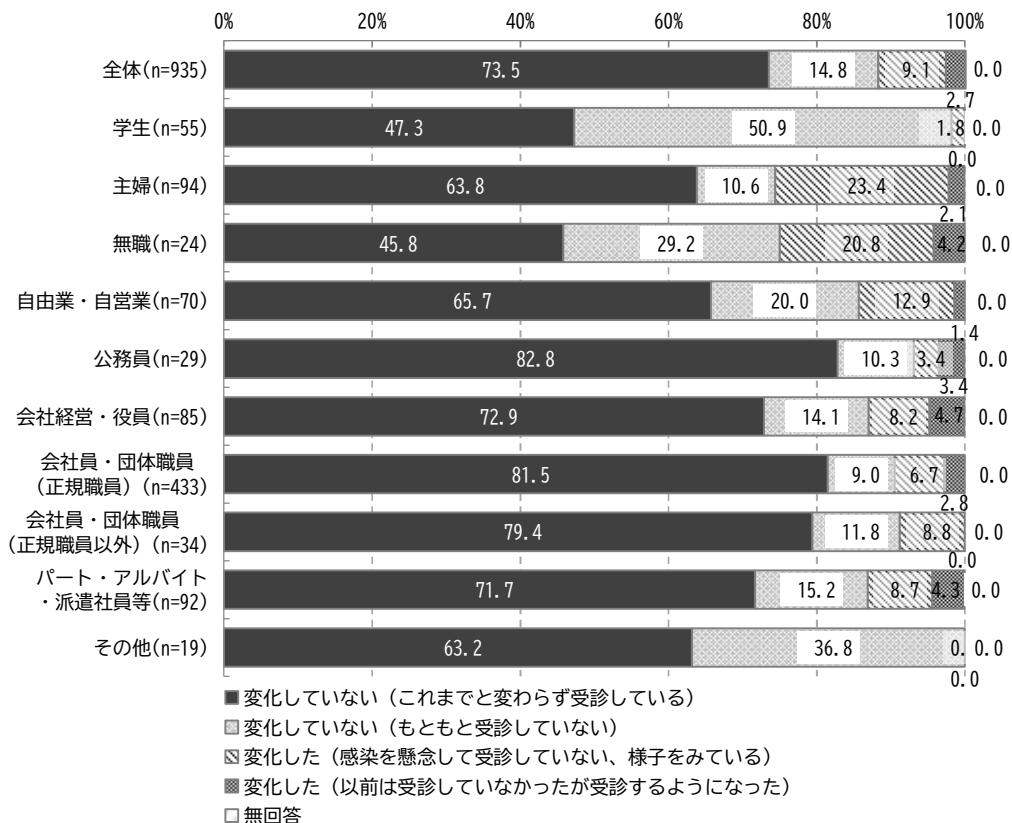
コロナ前と比べた健診・がん検診の受診行動について、年齢別にみると、35歳以上で「変化した（感染を懸念して受診していない、様子を見ている）」の割合が一定数いることから、コロナ禍で感染を懸念した受診控えが起こっていることがわかります。

コロナ前と比べた健診・がん検診の受診行動（年齢別）



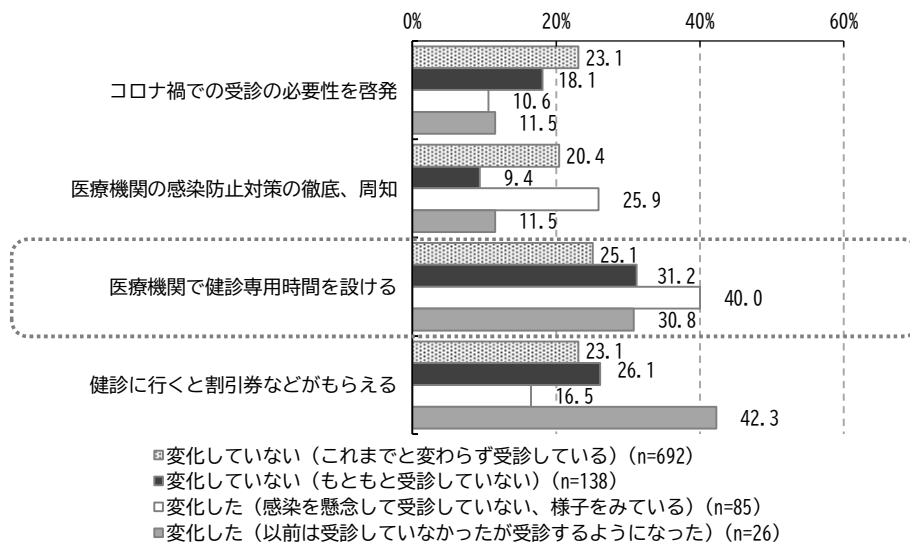
また、職業別にみると、“主婦”をはじめ、“無職”“自由業・自営業”で全体傾向よりも受診控えが起こっていることから、健康保険の異動により健康管理意識が低下していることが考えられます。

コロナ前と比べた健診・がん検診の受診行動（職業別）



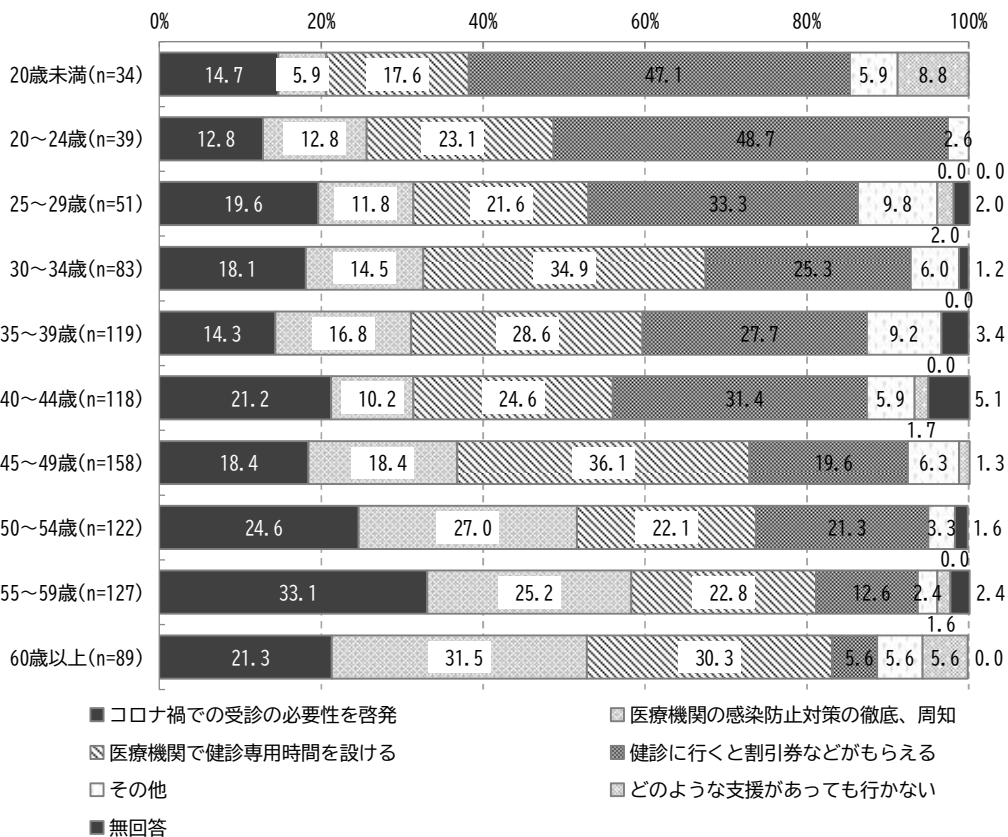
受診行動について「変化した（感染を懸念して受診していない、様子を見ている）」と回答した人は、コロナ禍で健康診査・がん検診を受診するための支援として、「医療機関で健診専用時間を設ける」が40.0%と多くなっています。

コロナ禍で健康診査・がん検診を受診するための支援（受診行動別）



健診・がん検診を受診したくなる支援についてその他の属性別の傾向として、学生などの若い世代では、「健診に行くと割引券などがもらえる」、「55～59歳」で「コロナ禍での受診の必要性を啓発」、「60歳以上」で「医療機関の感染防止対策の徹底、周知」が多くなっています。

コロナ禍で健康診査・がん検診を受診するための支援（年齢別）



2 感染症全般に関する情報発信と普及啓発

- エイズ・性感染症の検査機関の認知度について、“20歳代以下”で「匿名・無料で受けられることを知らなかった」が6割以上と多くになっており、若い世代への普及啓発が必要である

感染症全般に関する情報収集媒体をみると、「インターネット」が最も多く、次いで「テレビ」、「厚生労働省のホームページ」となっています。年齢別にみると、“60歳以上”では「広報みなど」が多く、“20歳代以下”では「インターネット」が9割近くと多くになっています。職業別にみると“主婦”と“会社員・団体職員（正規職員以外）”で「テレビ」が多くなっています。

感染症全般に関する情報収集媒体（年齢別）

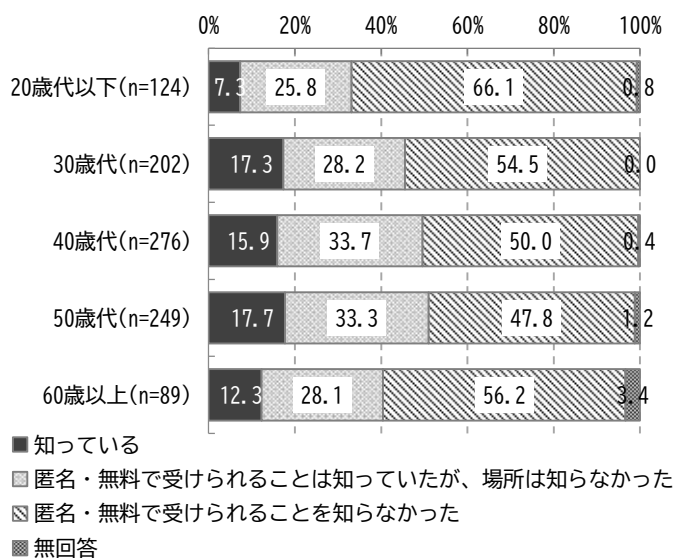
調査対象	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下(n=124)	インターネット 87.1%	テレビ 51.6%	厚生労働省のホームページ 12.1%	新聞 12.1%	東京都のホームページ 8.1%
30歳代(n=202)	インターネット 79.2%	テレビ 46.5%	厚生労働省のホームページ 25.7%	東京都のホームページ 15.8%	区のホームページ 15.8%
40歳代(n=276)	インターネット 81.5%	テレビ 53.3%	厚生労働省のホームページ 22.1%	区のホームページ 19.6%	東京都のホームページ 19.2%
50歳代(n=249)	インターネット 73.5%	テレビ 61.4%	東京都のホームページ 22.5%	厚生労働省のホームページ 21.7%	広報みなど 20.9%
60歳以上(n=89)	インターネット 67.4%	テレビ 58.4%	広報みなど 29.2%	新聞 19.1%	区のホームページ 18.0%

エイズ・性感染症の検査機関の認知度をみると、「匿名・無料で受けられることを知らなかった」が半数以上で最も多く、次いで「匿名・無料で受けられることは知っていたが、場所は知らなかった」、「みなど保健所」となっています。

年齢別にみると、“20歳代以下”で「匿名・無料で受けられることを知らなかった」が6割以上と多くになっており、若い世代への普及啓発が必要になっています。

港区での居住年数別にみると、“3年未満”で「匿名・無料で受けられることを知らなかった」、「20年以上」で「みなど保健所」がやや多くなっています。

エイズ・性感染症の検査機関の認知度（年齢別）



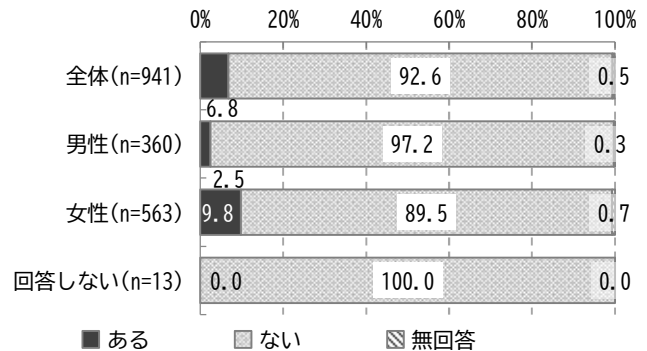
3 DVの被害状況と相談窓口の認知度

- DVについて、4人に1人が身近に見たり、聞いたりしたことがある
- 友人・知人等の身近な人への相談が多いことを踏まえ、当事者だけでなく、周囲の人も含めた認知度の向上が必要である

DVについて、4人に1人が身近に見たり、聞いたりしたことがあると回答しています。

配偶者やパートナー、恋人からのDV経験を男女別にみると、男性は2.5%、女性は9.8%と女性の方が多くなっています。また、内閣府が実施した「男女間における暴力に関する調査（令和2年度調査）」では、配偶者からの暴力の被害経験があった割合は22.5%（女性25.9%、男性18.4%）、交際相手からの暴力の被害経験がある割合は、12.6%（女性16.7%、男性8.1%）となっています。

配偶者やパートナー、恋人からのDV経験（男女別）



配偶者やパートナー、恋人からDVを受けた場合の相談窓口の認知度は全体で約6割です。「警察」が最も多く、次いで「知らない」、「港区立子ども家庭支援センター」となっています。「家族や友人にDVを受けた当事者がいる」、「家族や友人から相談を受けたことがある」人の相談窓口の認知度は約7割と高くなっています。

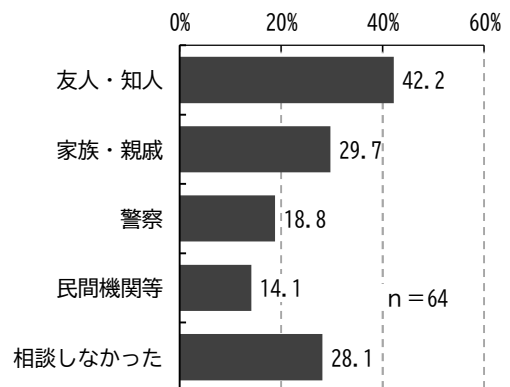
DVを受けた場合の相談窓口の認知度

	港区立子ども家庭支援センター	港区立男女平等参画センター(リーブラ)	東京ウィメンズプラザや東京都女性相談センター	警察	※知っている(全体から「知らない」「無回答」を除く)	知らない	無回答
全体(n=941)	12.0%	6.3%	7.7%	54.8%	59.7%	40.3%	0.0%
家族や友人にDVを受けた当事者がいる(n=141)	17.7%	7.1%	9.9%	62.4%	70.2%	29.8%	0.0%
家族や友人から相談を受けたことがある(n=87)	16.1%	6.9%	20.7%	62.1%	71.3%	28.7%	0.0%
見たことも聞いたこともない(n=707)	10.2%	6.1%	5.7%	52.3%	56.2%	43.8%	0.0%

配偶者やパートナー、恋人からのDVを受けた場合の相談先として、「友人・知人」、「家族・親戚」等の身近な人の割合が高いことがわかります。

友人・知人等の身近な人への相談が多いことを踏まえ、当事者だけでなく、周囲の人も含めた認知度の向上が必要です。

DVを受けた際の相談先(上位5位)



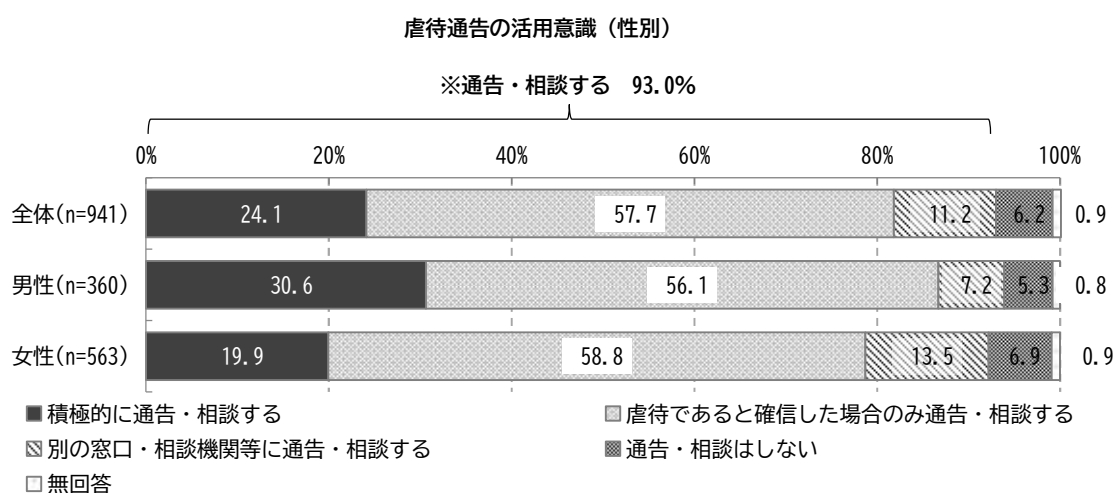
4 虐待通告の活用意識

- 児童虐待の疑いがあった場合の対応として、9割以上が「通告・相談する」と回答している。そのうち約6割は「虐待であると確信した場合のみ通告・相談する」と回答している

児童虐待の疑いがあった場合の対応をみると、9割以上が「通告・相談する」と回答していることから、通告・相談する割合が多いことがわかります。

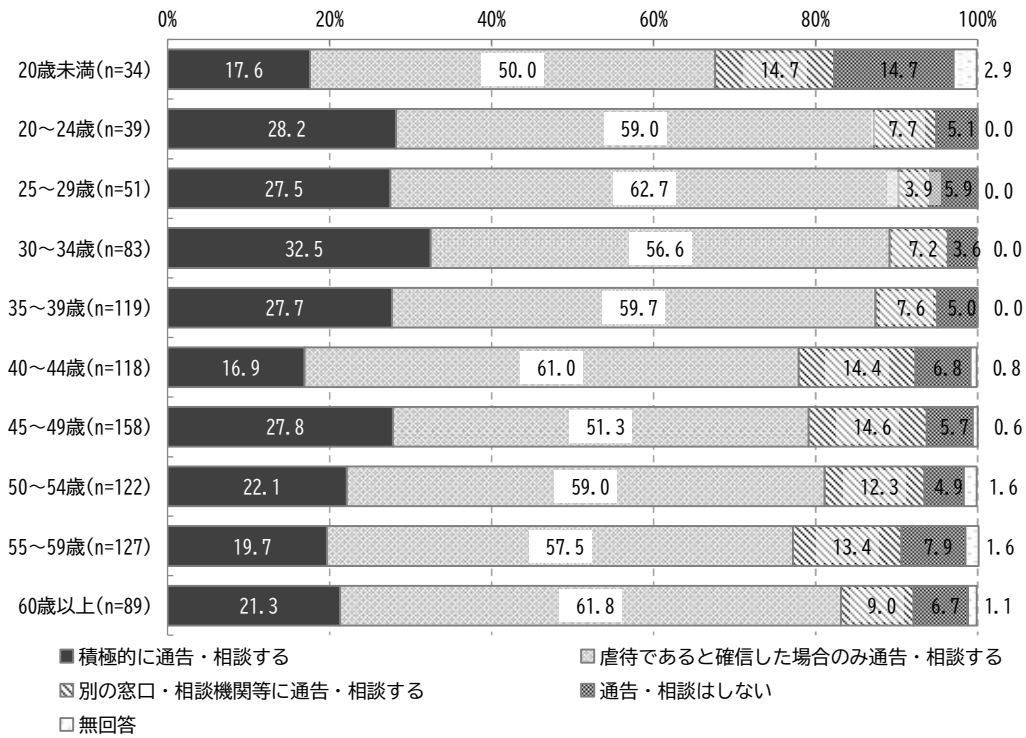
「通告・相談する」と回答した内訳をみると、「積極的に通告・相談する（24.1%）」、「別の窓口・相談機関等に通告・相談する（11.2%）」に比べて「虐待であると確信した場合のみ通告・相談する（57.7%）」と回答した割合が多いことが分かります。言い換えれば「虐待の疑いがあるが、虐待であると確信が持てない場合は通告しない割合が約6割」ということができます。

「積極的に通告・相談する」割合が多いのは、性別でみると「男性」、年齢別では「30～34歳」となっています。一方、「20歳未満」は、他の年代と比べ「通告・相談はしない」が多くなっています。

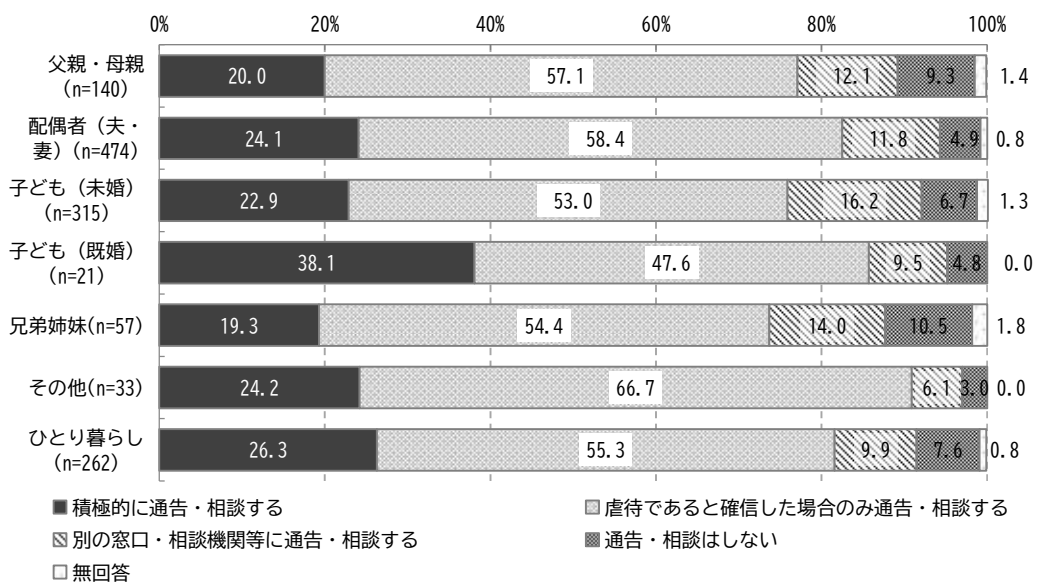


「別の窓口・相談機関等に通告・相談する」割合が多いのは、性別でみると「女性」、年齢別では「20歳未満」と「40歳～49歳」、同居者別では「子ども（未婚）」となっています。学校や幼稚園、保育園、子ども家庭支援センター、区役所、警察など、児童相談所とは別の相談機関等が比較的身近であることがうかがえます。

虐待通告の活用意識（年齢別）



虐待通告の活用意識（同居家族別）



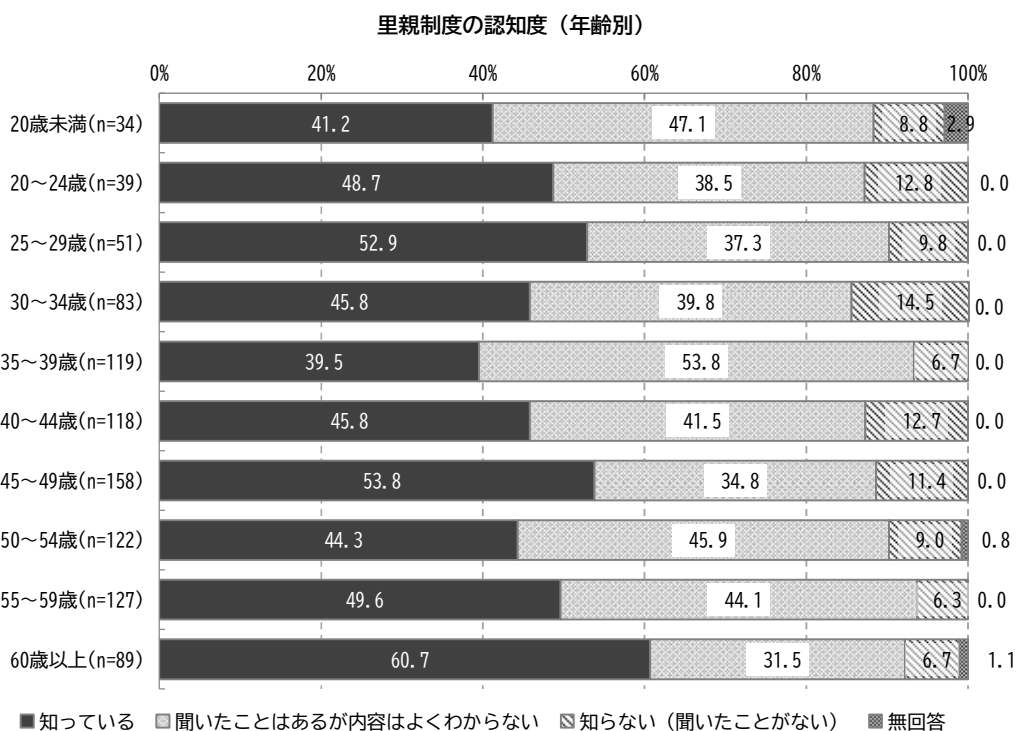
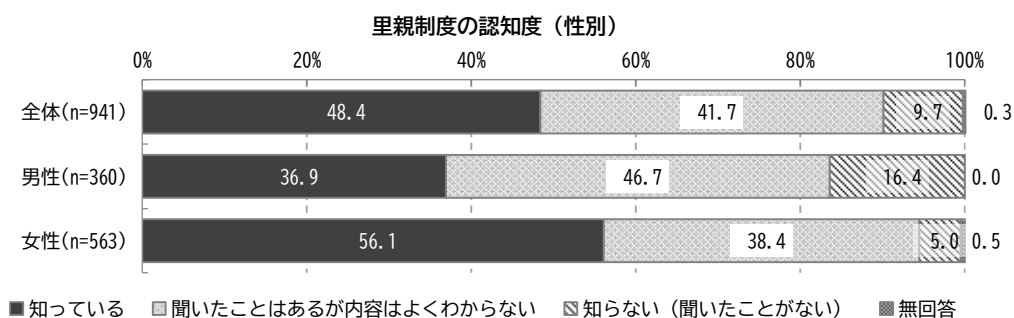
※サンプルが10以下の「孫」「祖父・祖母」「その他の親戚」は除く。

5 里親制度の認知度と意識

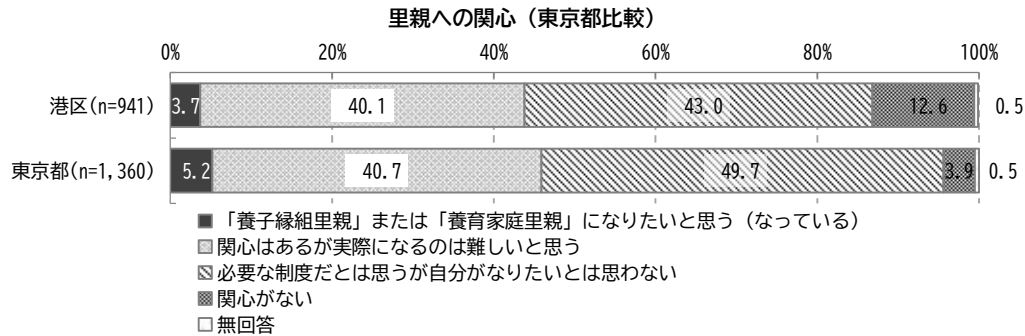
- 里親制度についての認知度は一定程度あるものの、「養子縁組里親」または「養育家庭里親」になりたいと思う（なっている）は1割以下である
- 里親になることが難しい、自分になりたいと思わない理由として、「実子がいるため（子育て中）」、「血の繋がらない子どもを家庭で預かることに不安がある」、「経済的な負担が心配である」が多い

里親制度の認知度をみると、「知っている」が約5割、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」が約4割となっています。

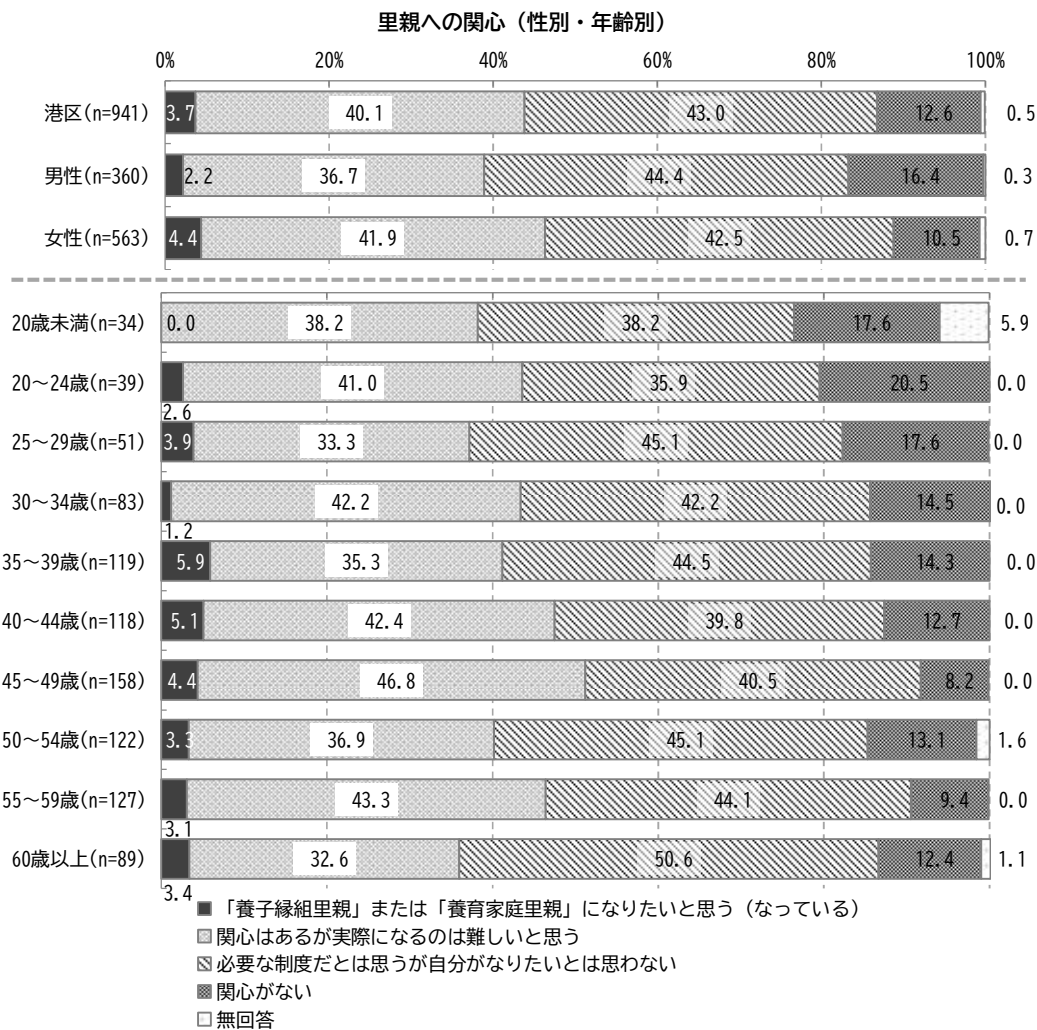
性別でみると、“男性”よりも“女性”の認知度が高くなっています。年齢別にみると、“60歳以上”で「知っている」が多い一方で、“35～39歳”では「聞いたことはあるが内容はよくわからない」が多くなっていることがわかります。



「里親になることの意識」について、全体で「必要な制度だとは思いますが自分になりたいとは思わない」が最も多く、次いで「関心はあるが実際になるのは難しいと思う」、「関心がない」となっています。「養子縁組里親」または「養育家庭里親」になりたいと思う（なっている）は5%以下となっています。また、東京都の「令和元年度東京都里親制度に関する都民の意識調査」でも里親になりたいと思う人は同程度となっています。



里親になることが難しいと思う・自分になりたいとは思わない理由をみると、「実子がいるため（子育て中）」が最も多く、次いで「血の繋がらない子どもを家庭で預かることに不安がある」、「経済的な負担が心配である」となっています。



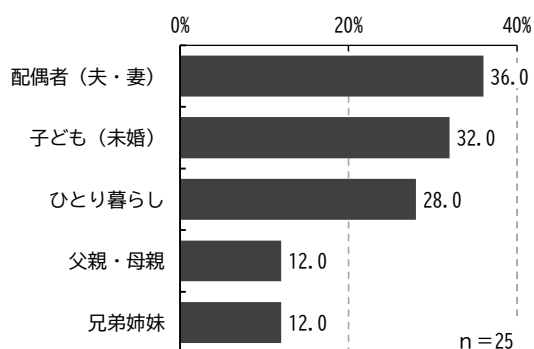
6 ひきこもりの実態と相談先の認知度

- ひきこもり状態の家族（本人含む）がいる回答者は2.7%（25人）となっており、前回調査の1.1%（8人）よりも増加している
- ひきこもり状態の方にとっての不安要素や必要なことは、収入や就労に関する項目が上位となっていることから経済的な不安が大きい

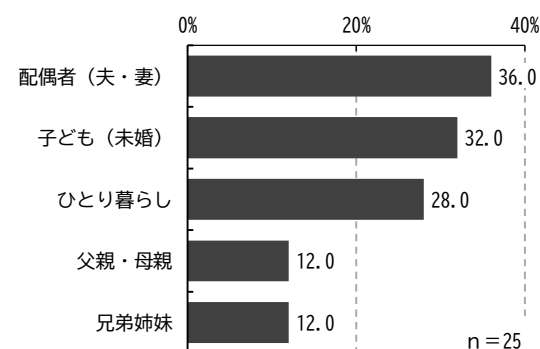
ひきこもり状態の家族（本人含む）がいる回答者は2.7%（25人）となっており、前回調査の1.1%（8人）よりも増加しています。

ひきこもりの状態の期間は、「1年～5年未満」が40.0%と最も多く、次いで「10年～20年未満」が28.0%、「5年～10年未満」が16.0%となっています。また、ひきこもり状態の家族について、同居の有無は求めているものの、ひきこもりの状態の家族（本人含む）がいる回答者のうち、世帯年収200万円以下が16.0%、ひとり暮らしが28.0%となっています。

ひきこもり状態の期間（※20年以上は該当者なし）

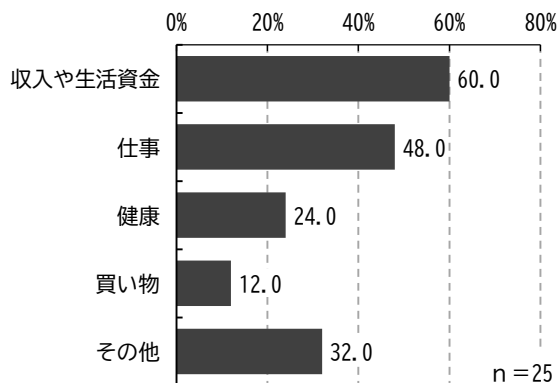


ひきこもり状態の家族がいる方の同居家族（上位5位）

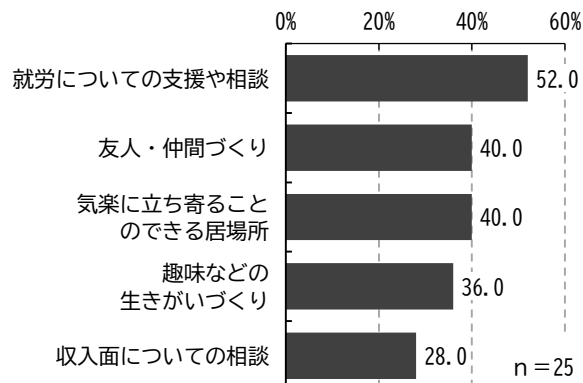


ひきこもり状態の方にとっての不安要素は、「収入や生活資金」が60.0%で最多、次いで「仕事」が48.0%となっており、必要なものは「就労についての支援や相談」が52.0%となっているなど、収入や就労に関する項目が上位となっていることから経済的な不安が大きいことがわかります。

ひきこもり状態の方の不安要素（上位5位）



ひきこもり状態の方に必要なもの（上位5位）

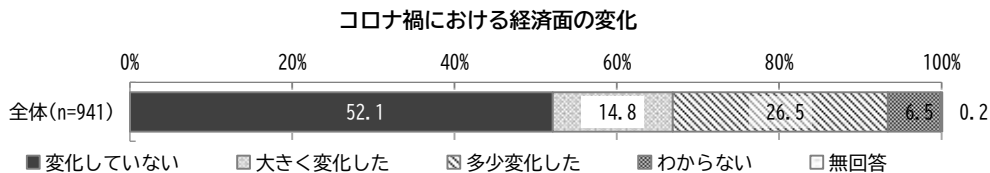


相談先としては「港区生活・就労支援センター（区のひきこもり相談窓口）」が20.0%と最多となっているものの、「相談したいと思わない」が28.0%と多くなっています。

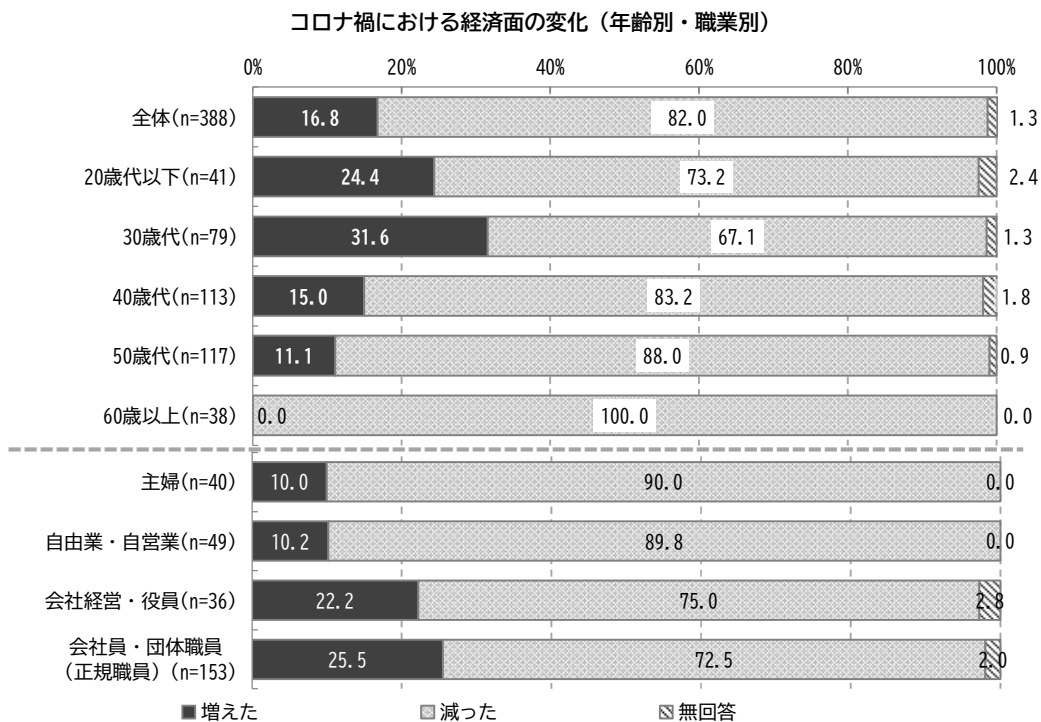
7 コロナ禍における経済面の変化

- コロナ禍における経済面で変化した割合は約4割、そのうち8割以上が、世帯収入が「減った」と回答している

経済的な変化の有無をみると、「変化していない」半数以上と最も多いものの、「変化した」（「大きく変化した」と「多少変化した」の合計）が約4割となっており、その変化について8割以上が世帯収入が「減った」と回答していることがわかります。



世帯収入が「減った」と回答している層を属性別にみると、年齢別では“50歳代”、職業別では“主婦”“自由業・自営業”、同居者別では“配偶者（夫・妻）”“子ども（未婚）”、年収別では“300万円以上 400万円未満”、一週間の平均的な労働時間別では“30時間未満”が多くなっています。



※サンプルが30以下の「学生」「無職」「公務員」「会社員・団体職員（正規職員以外）」「その他」は除く。

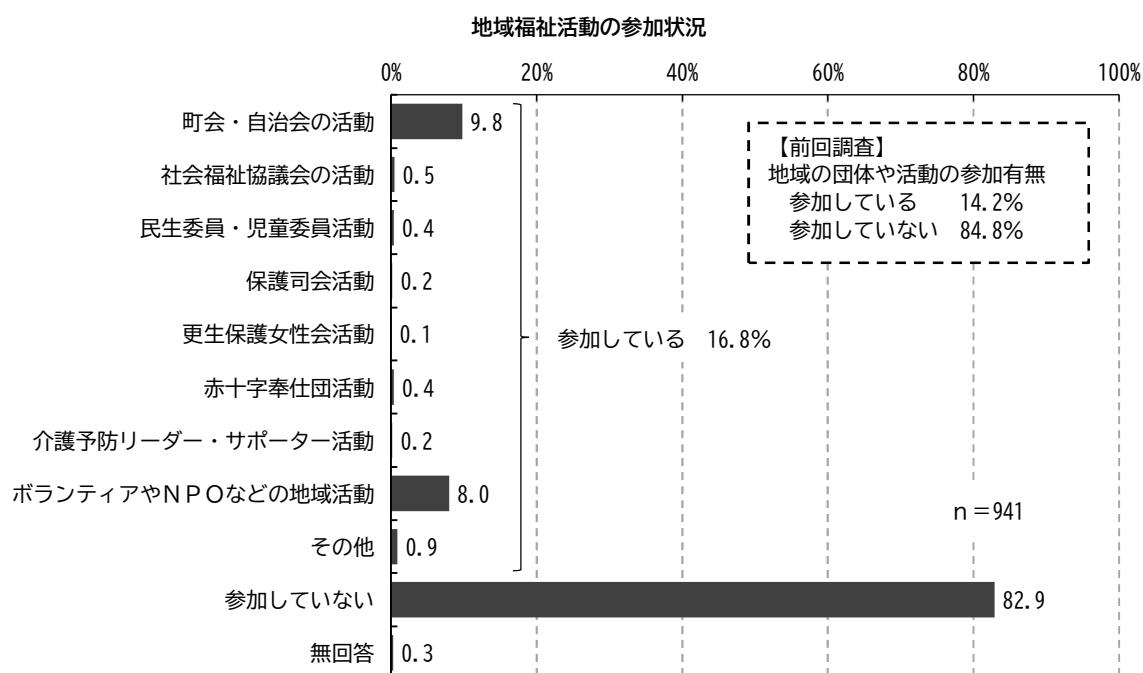
世帯年収が減った際の対応をみると、全体では「自分・家族の貯蓄の切り崩し」50.0%が最も多く、次いで「特に何もしていない」28.6%、「公的な支援（給付金など）」21.4%となっています。

「公的な支援（給付金など）」を利用している層を属性別にみると、年齢別では“55～59歳”、職業別では“自由業・自営業”、年収別では“500万円以上 700万円未満”が多くなっています。

8 地域福祉活動への参加に関する実態と意識

- 地域福祉活動の参加状況をみると全体で 16.8%である
- 「地域福祉活動に参加しやすくなる条件」の回答から、「興味や関心のわく活動があれば」「時間に余裕があれば」「仕事を持ちながらでも参加できる活動があれば」や「あまり時間を取られずに参加できるものがあれば」などから活動につなげていく工夫が必要である

地域福祉活動の参加状況をみると全体で 16.8%となっています。前回調査における地域の団体や活動の参加率 14.2%からやや増えているものの少ない状況です。



年齢別にみると、“45～49歳”で「町会・自治会の活動」がやや多く、次いで、20歳未満で「ボランティアやNPOなどの地域活動」が多くなっています。職業別にみると、“会社経営・役員”で「町会・自治会の活動」がやや多くなっています。一週間の平均的な労働時間別にみると、“30時間未満”で「町会・自治会の活動」と「ボランティアやNPOなどの地域活動」がやや多くなっています。

現在参加している、あるいは参加したことがある人の「地域福祉活動に参加したきっかけ」をみると、「友人・知人からの勧めがあったから」が41.8%で最多、次いで、勤務先の活動の一環としての参加や当番制によって担っているなどの「その他」が21.5%、「地域福祉活動に興味があったから」が18.4%となっています。

現在参加していない人が、どのような条件が整えば参加しやすくなるかについて、年齢別にみると、“30～34歳”で「時間に余裕があれば」が60.0%、“60歳以上”で「自分の知識や経験を生かせる活動があれば」が32.9%と多くなっています。

今後の地域福祉活動の参加希望をみると、「いずれも参加したいと思わない」が38.3%で最多、「ボランティアやNPOなどの地域活動」が35.6%、町会・自治会の活動が15.9%となっています。20歳未満、45～49歳、55～59歳で参加したいが6割以上とやや多くなっています。男性よりも女性が参加したいが多くなっています。

「地域福祉活動に参加しやすくなる条件」の回答から、「興味や関心のわく活動があれば」「時間に余裕があれば」「仕事を持ちながらでも参加できる活動があれば」や「あまり時間を取られずに参加できるものがあれば」などから活動につなげていく工夫が必要と考えられます。

今後の地域福祉活動の参加希望（地域福祉活動に参加しやすくなる条件別）

	町会・自治会の活動	社会福祉協議会の活動	民生委員・児童委員活動	保護司会活動	更生保護女性会活動	赤十字奉仕団活動	介護予防リーダー・サポーター活動	ボランティアやNPOなどの地域活動	その他	いずれも参加したいと思わない	無回答
全体	15.9	5.2	5.6	2.0	3.0	7.7	4.7	35.6	5.3	38.3	4.1
時間に余裕があれば	13.2	3.8	6.0	1.6	2.8	8.8	6.6	41.1	5.6	33.9	2.2
仕事を持ちながらでも参加できる活動があれば	14.7	7.6	7.6	3.6	5.1	11.2	6.1	48.2	7.1	22.8	3.6
収入につながる活動があれば	11.6	4.1	4.8	1.4	1.4	6.1	4.1	23.8	4.8	53.1	2.0
一人でも気軽に参加できる活動があれば	16.3	7.7	9.7	3.1	6.1	13.3	7.1	51.5	6.1	22.4	2.6
一緒に参加する友人・知人がいれば	9.9	6.6	8.8	5.5	5.5	8.8	6.6	37.4	5.5	40.7	1.1
あまり時間を取られずに参加できるものがあれば	12.7	6.1	4.6	0.5	3.6	11.7	5.1	38.1	10.2	35.0	2.0
興味や関心のわく活動があれば	10.7	4.3	6.1	2.6	4.0	8.1	5.2	36.7	7.8	39.0	2.3
家の近くでできる活動があれば	16.0	6.7	9.3	4.1	6.2	11.3	9.3	45.9	10.3	21.1	2.6
在宅でも参加できる活動があれば	15.7	6.6	6.6	1.7	5.0	8.3	8.3	36.4	9.9	31.4	0.0
自分の知識や経験を生かせる活動があれば	14.1	7.6	8.2	4.1	5.3	10.6	8.2	46.5	9.4	22.9	1.2
活動の内容に関する具体的な情報が得られれば	10.9	8.5	7.9	6.1	6.7	12.1	6.7	45.5	12.1	21.8	4.2
家族の理解が得られれば	16.7	0.0	5.6	0.0	2.8	8.3	2.8	27.8	11.1	38.9	5.6
その他	0.0	0.0	6.3	0.0	6.3	6.3	0.0	18.8	18.8	50.0	0.0
条件にかかわらず参加したくない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	95.3	2.3

9 福祉総合窓口への期待やニーズ

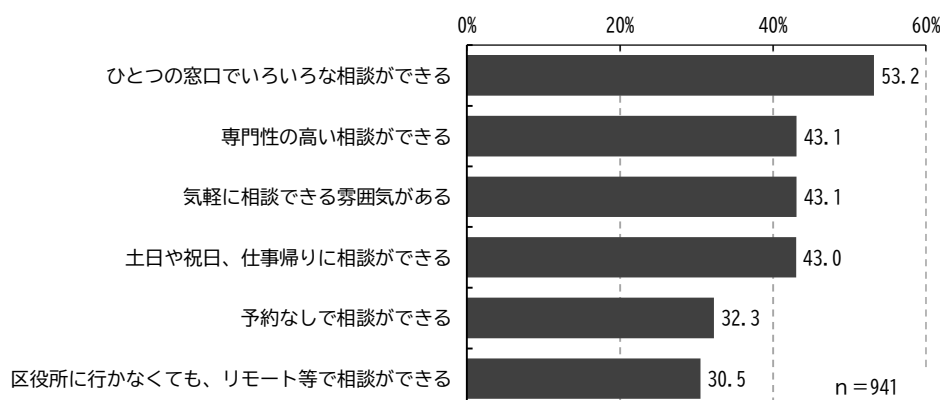
- 区の相談機関に求めることをみると、「ひとつの窓口でいろいろな相談ができる」など、ワンストップで相談しやすい体制が求められている
- 「区からのメールやSNS」「広報みなど」はいずれの年代でも上位5位以内に入っていることから、情報発信媒体として優先度が高い情報媒体である

暮らしの中の福祉（高齢者、障害者、子ども等）に関する困りごとの相談先として、「区役所・区関係機関」と「相談せずにインターネットや書籍等で調べる」が最も多く、次いで「わからない」となっています。

「区役所・区関係機関」の回答が多い層を属性別にみると、年齢別では“30～34歳”、同居者別では“子ども（未婚）”、年収別では“700万円以上1000万円未満”、港区での居住年数別では“20年以上”となっています。

区の相談機関に求めることをみると、「ひとつの窓口でいろいろな相談ができる」が最も多く、次いで「専門性の高い相談ができる」と「気軽に相談できる雰囲気がある」など、ワンストップで相談しやすい体制が求められていることがうかがえます。

区の相談機関に求めること（上位6位以内）



年齢別にみると、“20歳未満”で「気軽に相談できる雰囲気がある」、「25～29歳」で「区役所に行かなくても、リモート等で相談ができる」、「30～34歳」で「土日や祝日、仕事帰りに相談ができる」、「60歳以上」で「ひとつの窓口でいろいろな相談ができる」が多くなっています。港区での居住年数別にみると、“1年以上3年未満”で「区役所に行かなくても、リモート等で相談ができる」がやや多くなっています。

医療機関と福祉に関する情報について希望する入手先をみると、「区からのメールやSNS」「広報みなど」はいずれの年代でも上位5位以内に入っていることから、優先度が高い情報媒体であることがうかがえます。

医療機関と福祉に関する情報について希望する入手先（上位5位以内）

調査対象	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下(n=124)	インターネット	新聞・テレビ・CATV・ラジオ	区からのメールやSNS	広報みなど	家族・親戚
	79.2%	29.0%	26.6%	21.0%	20.2%
30歳代(n=202)	区のホームページ	区からのメールやSNS	広報みなど	新聞・テレビ・CATV・ラジオ	保育園・幼稚園・学校・児童館等
	58.4%	36.1%	22.3%	15.8%	15.3%
40歳代(n=276)	区のホームページ	広報みなど	区からのメールやSNS	区の掲示物・配付物	新聞・テレビ・CATV・ラジオ
	63.8%	37.0%	31.2%	19.2%	14.5%
50歳代(n=249)	区のホームページ	広報みなど	区からのメールやSNS	新聞・テレビ・CATV・ラジオ	区の掲示物・配付物
	68.3%	49.0%	22.5%	21.7%	17.3%
60歳以上(n=89)	広報みなど	区のホームページ	区の掲示物・配付物	区からのメールやSNS	新聞・テレビ・CATV・ラジオ
	66.3%	57.3%	24.7%	21.3%	15.7%

第3章 集計結果

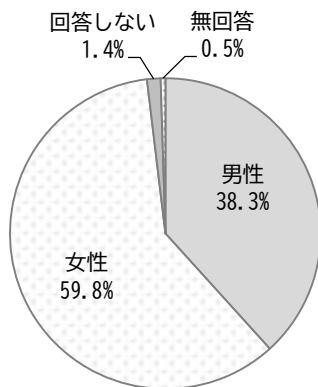
1 一般区民を対象とした調査の集計結果

1 回答者について

問1 性別を教えてください。(○は1つ)

「女性」が59.8%、「男性」が38.3%となっています。

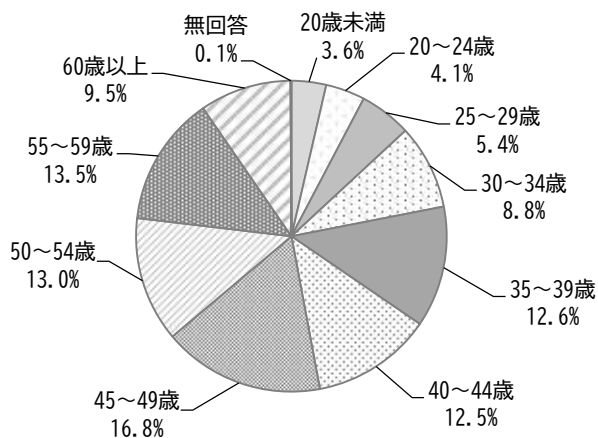
(n=941)



問2 年齢を教えてください。(○は1つ)

「45～49歳」が16.8%と最も多く、次いで「55～59歳」が13.5%、「50～54歳」が13.0%となっています。

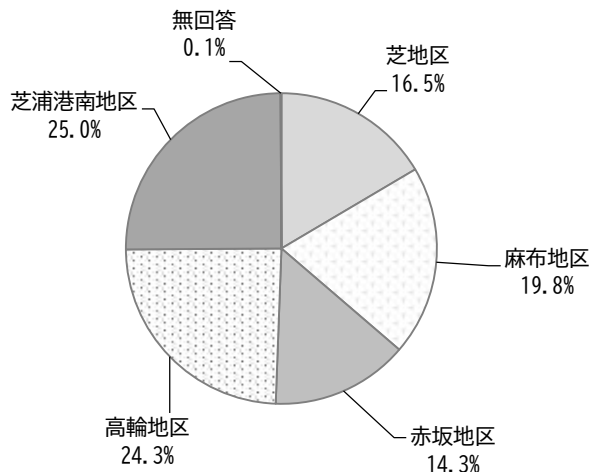
(n=941)



問3 お住まいの地区を教えてください。(○は1つ)

「芝浦港南地区」が25.0%と最も多く、次いで「高輪地区」が24.3%、「麻布地区」が19.8%となっています。

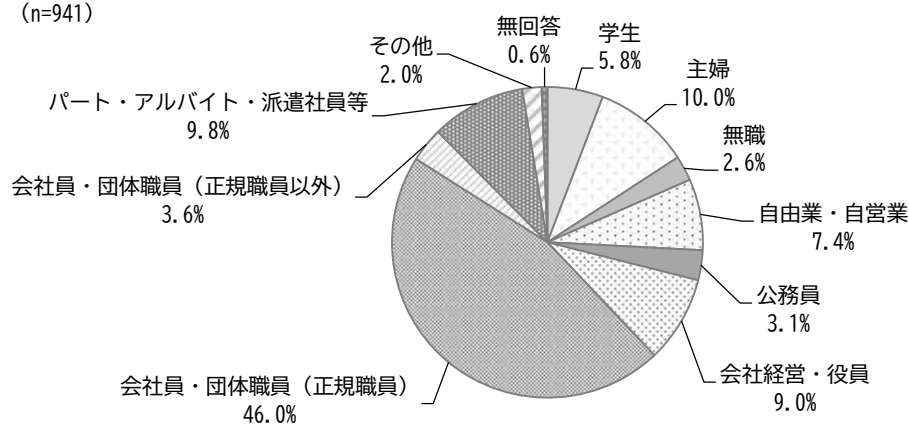
(n=941)



問4 職業を教えてください。(○は1つ)

「会社員・団体職員（正規職員）」が46.0%と最も多く、次いで「主婦」が10.0%、「パート・アルバイト・派遣社員等」が9.8%となっています。

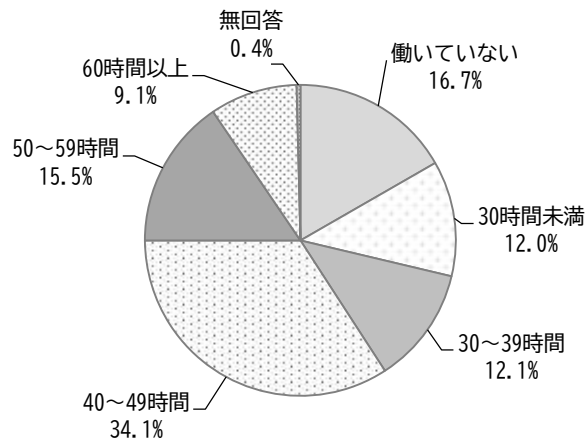
(n=941)



問5 あなたの一週間の平均的な労働時間を教えてください。(○は1つ)

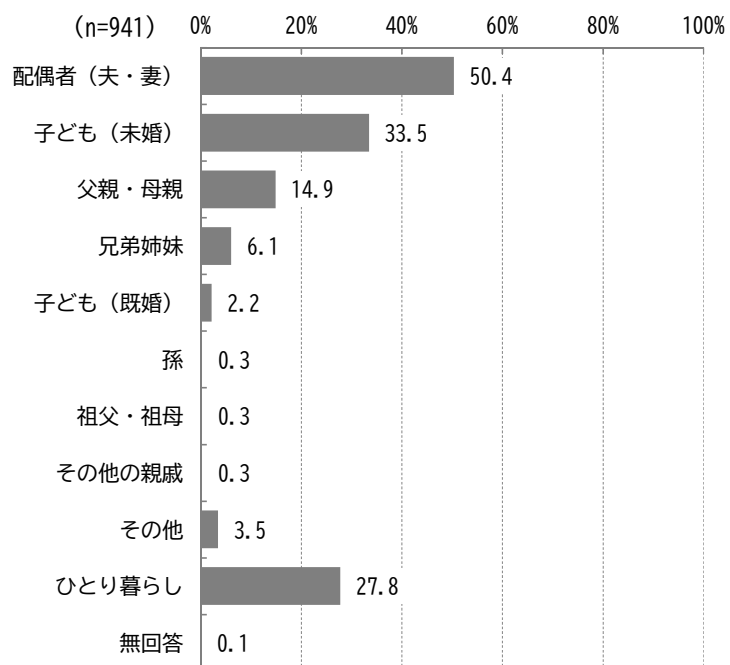
「40～49 時間」が 34.1%と最も多く、次いで「働いていない」が 16.7%、「50～59 時間」が 15.5%となっています。

(n=941)



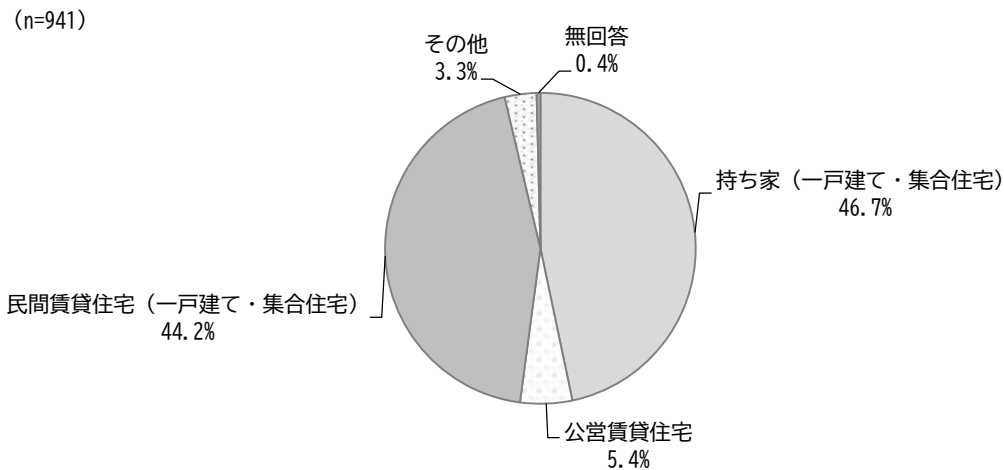
問6 現在、どなたと同居しているか教えてください。(○はいくつでも)

「配偶者 (夫・妻)」が 50.4%と最も多く、次いで「子ども (未婚)」が 33.5%、「ひとり暮らし」が 27.8%となっています。



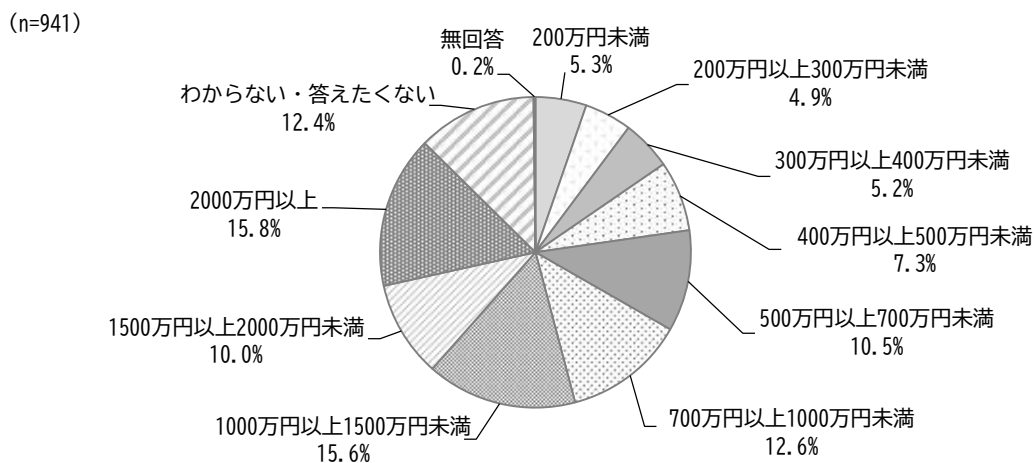
問7 現在お住まいの住宅を教えてください。(〇は1つ)

「持ち家（一戸建て・集合住宅）」が46.7%と最も多く、次いで「民間賃貸住宅（一戸建て・集合住宅）」が44.2%、「公営賃貸住宅」が5.4%となっています。



問8 あなたの世帯全体における昨年1年間のおおよその年収（税込み）を教えてください。(〇は1つ)

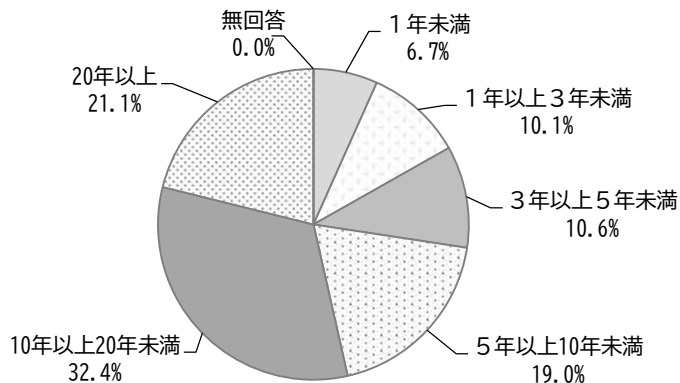
「2000万円以上」が15.8%と最も多く、次いで「1000万円以上1500万円未満」が15.6%、「700万円以上1000万円未満」が12.6%となっています。



問9 港区での居住年数を教えてください。(○は1つ)

「10年以上20年未満」が32.4%と最も多く、次いで「20年以上」が21.1%、「5年以上10年未満」が19.0%となっています。

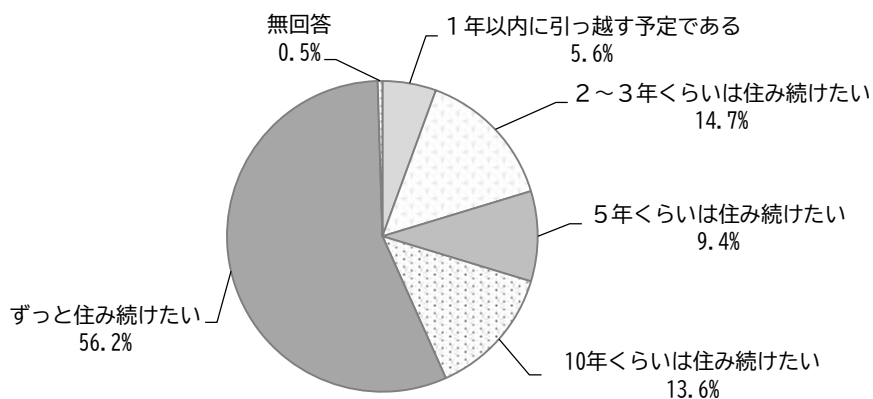
(n=941)



問10 今後、港区に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

「ずっと住み続けたい」が56.2%と最も多く、次いで「2~3年くらいは住み続けたい」が14.7%、「10年くらいは住み続けたい」が13.6%となっています。

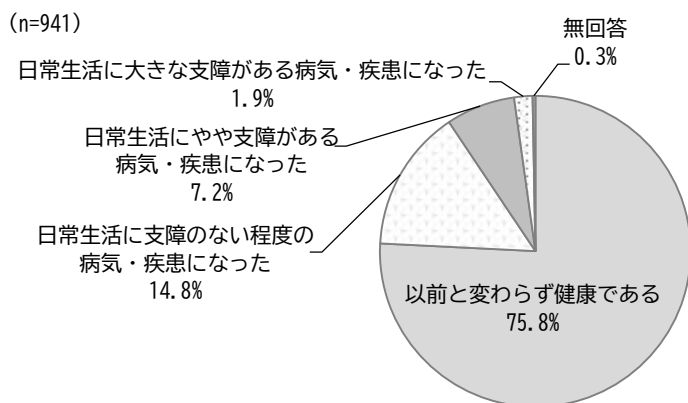
(n=941)



2 健康づくりについて

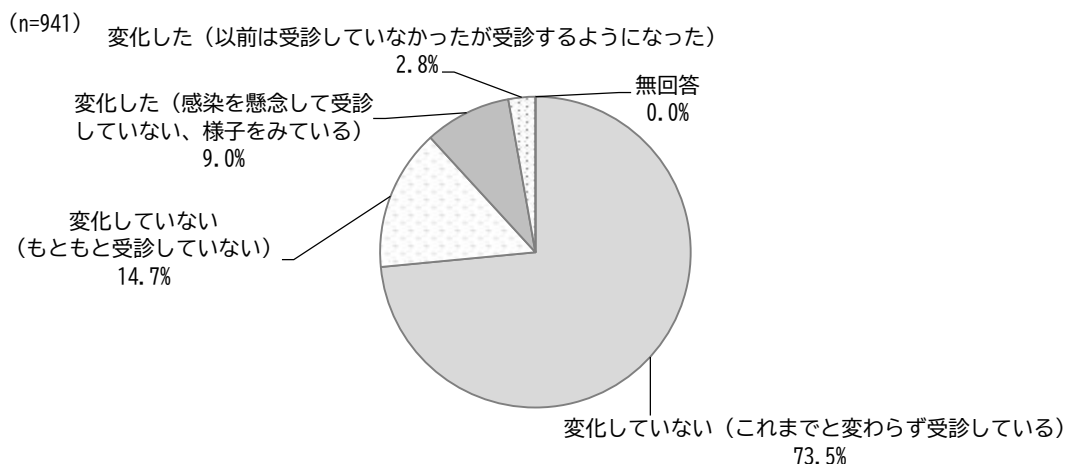
問 11 あなたの現在の健康状態について、新型コロナウイルス感染症の拡大（2019年12月）以前と比べて変化がありましたか。（○は1つ）

「以前と変わらず健康である」が75.8%と最も多く、次いで「日常生活に支障のない程度の病気・疾患になった」が14.8%、「日常生活にやや支障がある病気・疾患になった」が7.2%となっています。



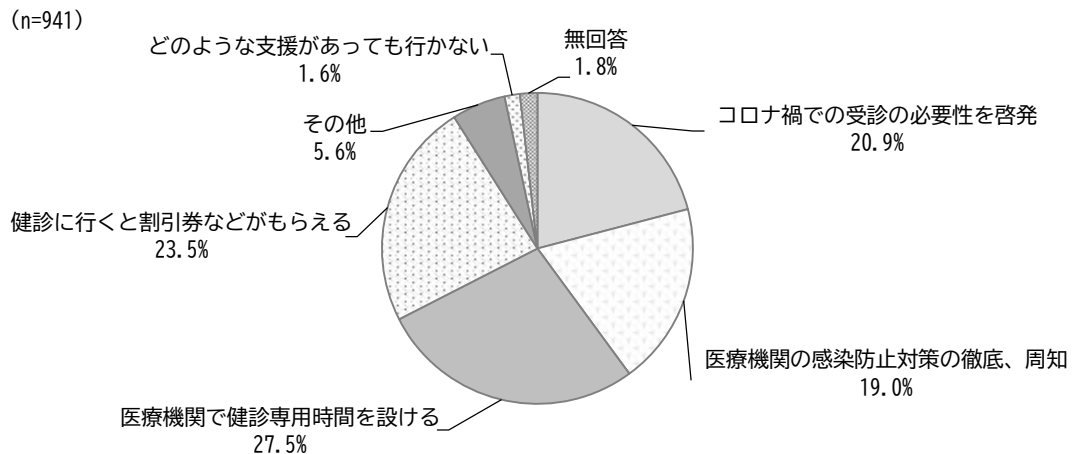
問 12 新型コロナウイルス感染症の拡大（2019年12月）前後で、健康診査・がん検診の受診行動は変化しましたか。（○は1つ）

“変化していない”（「変化していない（これまでと変わらず受診している）」と「変化していない（もともと受診していない）」の合計）が88.2%、“変化した”（「変化した（感染を懸念して受診していない、様子を見ている）」と「変化した（以前は受診していなかったが受診するようになった）」の合計）が11.8%となっています。



問 13 コロナ禍で健康診査・がん検診を見送ると、その間に健康状態が悪化し早期治療できないことがあるため、健康診査・がん検診の受診は大切です。どのような支援があれば、コロナ禍でも受診したくなりますか。(〇は1つ)

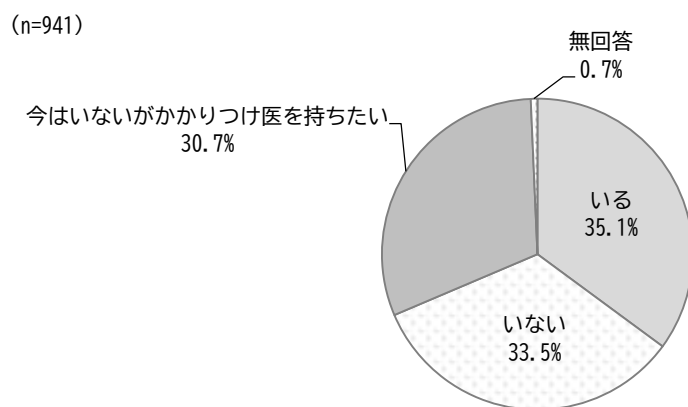
「医療機関で健診専用時間を設ける」が27.5%と最も多く、次いで「健診に行くと割引券などがもらえる」が23.5%、「コロナ禍での受診の必要性を啓発」が20.9%となっています。



3 かかりつけ医について

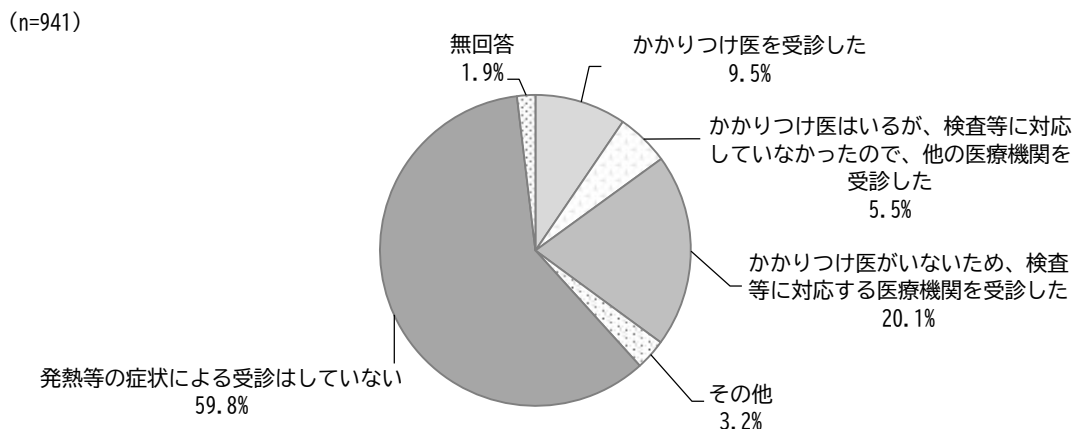
問 14 健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師（かかりつけ医）はいますか？(〇は1つ)

「いる」が35.1%、「いない」が33.5%となっています。



問 15 発熱など、新型コロナウイルス感染症が疑われた時の受診先について教えてください。
(○は1つ)

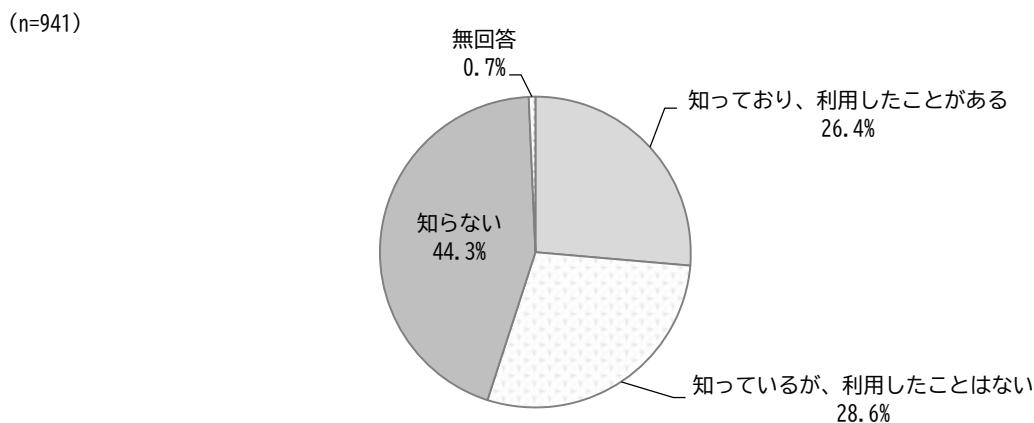
「発熱等の症状による受診はしていない」が59.8%と最も多く、次いで「かかりつけ医がいないため、検査等に対応する医療機関を受診した」が20.1%、「かかりつけ医を受診した」が9.5%となっています。



4 休日・夜間診療体制について

問 16 港区の休日・夜間診療について、実施されていることを知っていますか。また、利用したことはありますか。(○は1つ)

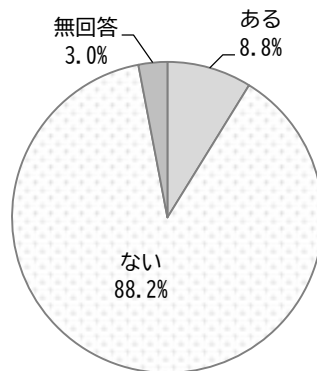
「知らない」が44.3%、「知っているが、利用したことはない」が28.6%となっています。



問 17 港区以外の休日・夜間診療を利用したことがありますか。ある場合はその理由を教えてください。(成人) (○は1つ)

「ない」が88.2%、「ある」が8.8%となっています。

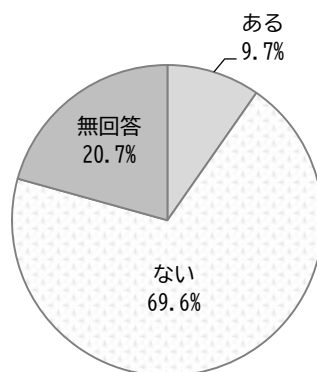
(n=941)



問 17 港区以外の休日・夜間診療を利用したことがありますか。ある場合はその理由を教えてください。(小児) (○は1つ)

「ない」が69.6%、「ある」が9.7%となっています。

(n=941)

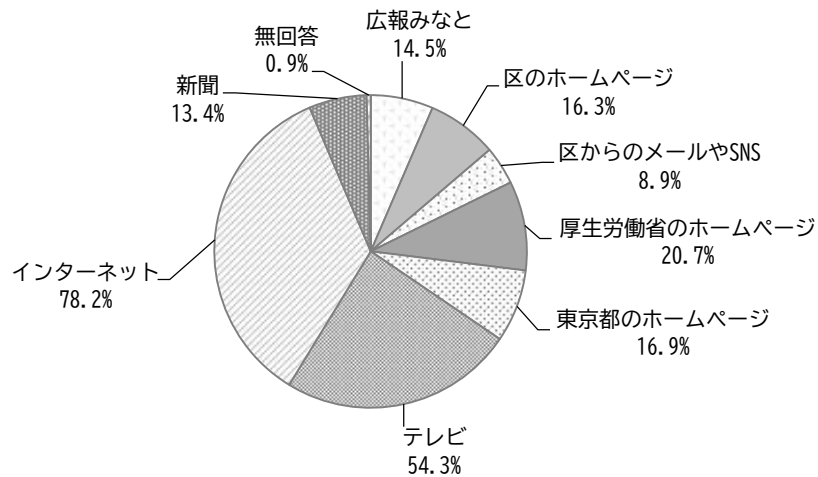


5 感染症について

問 18 感染症について、どのような媒体から有益な情報を入手していますか。(〇はいくつでも)

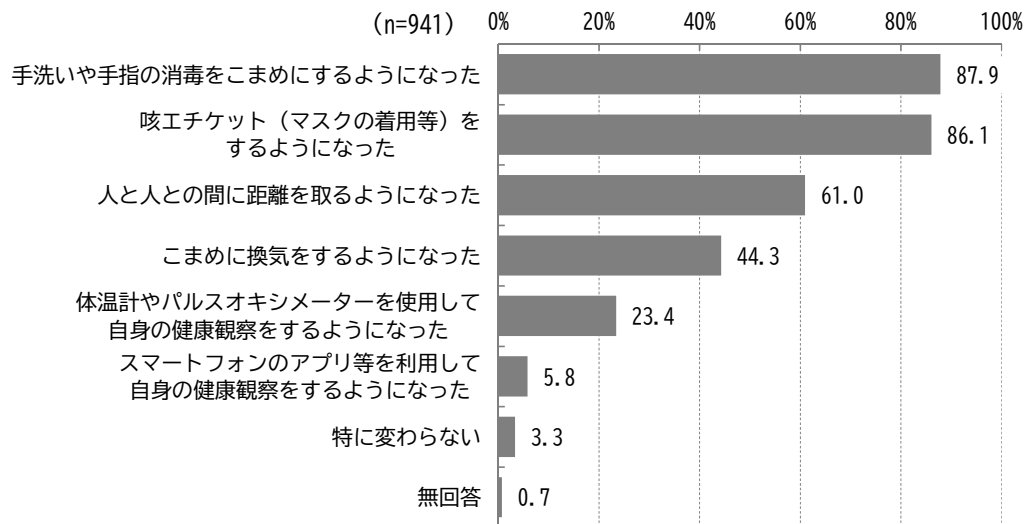
「インターネット」が78.2%と最も多く、次いで「テレビ」が54.3%、「厚生労働省のホームページ」が20.7%となっています。

(n=941)



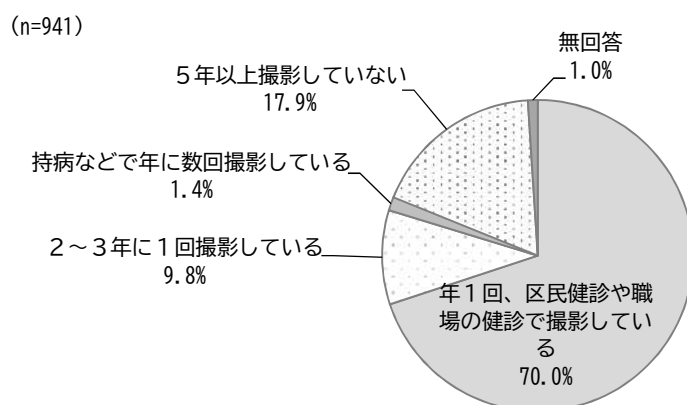
問 19 新型コロナウイルス感染症の流行により、自分の感染予防の方法が変わりましたか。(〇はいくつでも)

「手洗いや手指の消毒をこまめにするようになった」が87.9%と最も多く、次いで「咳エチケット（マスクの着用等）をするようになった」が86.1%、「人と人との間に距離を取るようになった」が61.0%となっています。



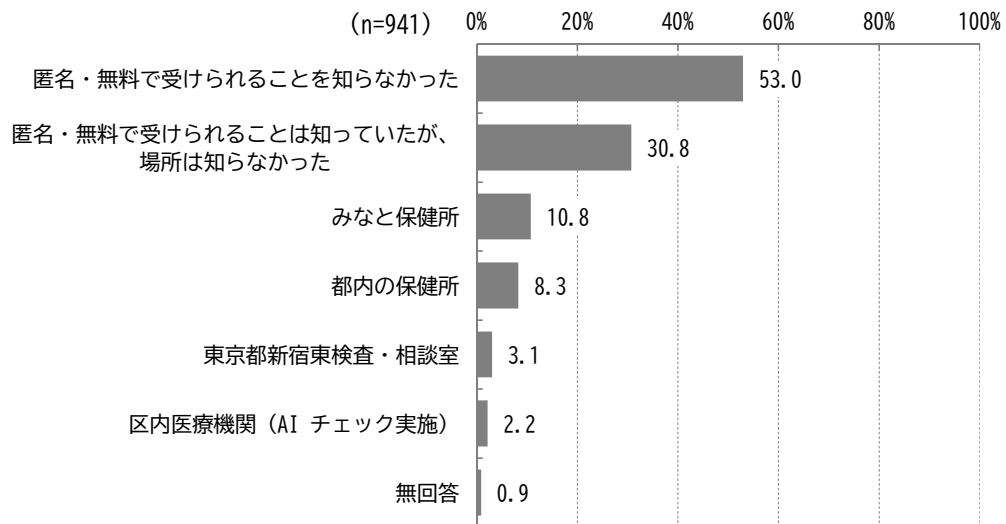
問 20 結核は、空気感染で、家族や職場の同僚などの身近な人にうつす病気です。結核を早期発見するためには、胸部エックス線撮影が有効ですが、胸部エックス線撮影の機会がありますか。(〇は1つ)

「年1回、区民健診や職場の健診で撮影している」が70.0%と最も多く、次いで「5年以上撮影していない」が17.9%、「2～3年に1回撮影している」が9.8%となっています



問 21 エイズ・性感染症の検査を匿名・無料で受けられる場所を知っていますか。(〇はいくつでも)

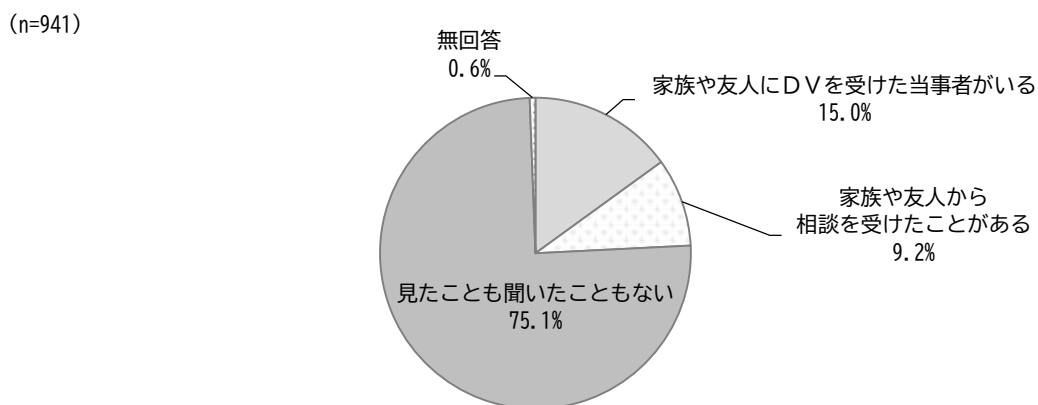
「匿名・無料で受けられることを知らなかった」が53.0%と最も多く、次いで「匿名・無料で受けられることは知っていたが、場所は知らなかった」が30.8%、「みなと保健所」が10.8%となっています。



6 ドメスティックバイオレンス (DV) について

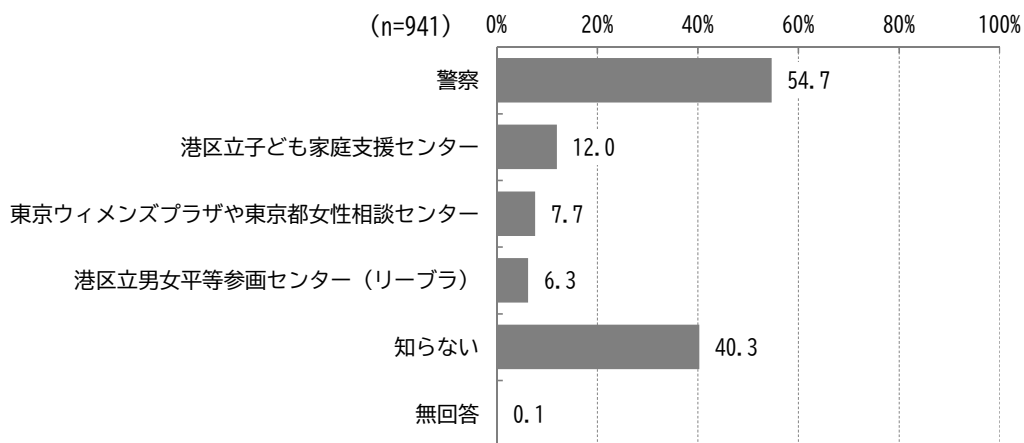
問 22 DVについて、身近に見たり、聞いたりしたことがありますか。(〇は1つ)

「見たことも聞いたこともない」が75.1%、「家族や友人にDVを受けた当事者がいる」が15.0%となっています。



問 23 配偶者やパートナー、恋人からのDVを受けた場合、次の相談窓口を知っていますか。
(〇はいくつでも)

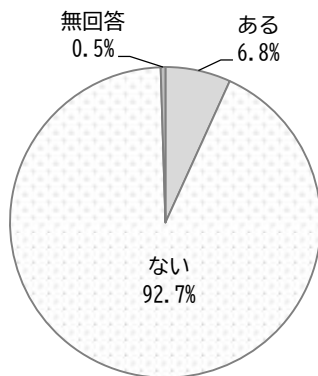
「警察」が54.7%と最も多く、次いで「知らない」が40.3%、「港区立子ども家庭支援センター」が12.0%となっています。



問 24 配偶者やパートナー、恋人からのDVを受けたことがありますか。(〇は1つ)

「ない」が92.7%、「ある」が6.8%となっています。

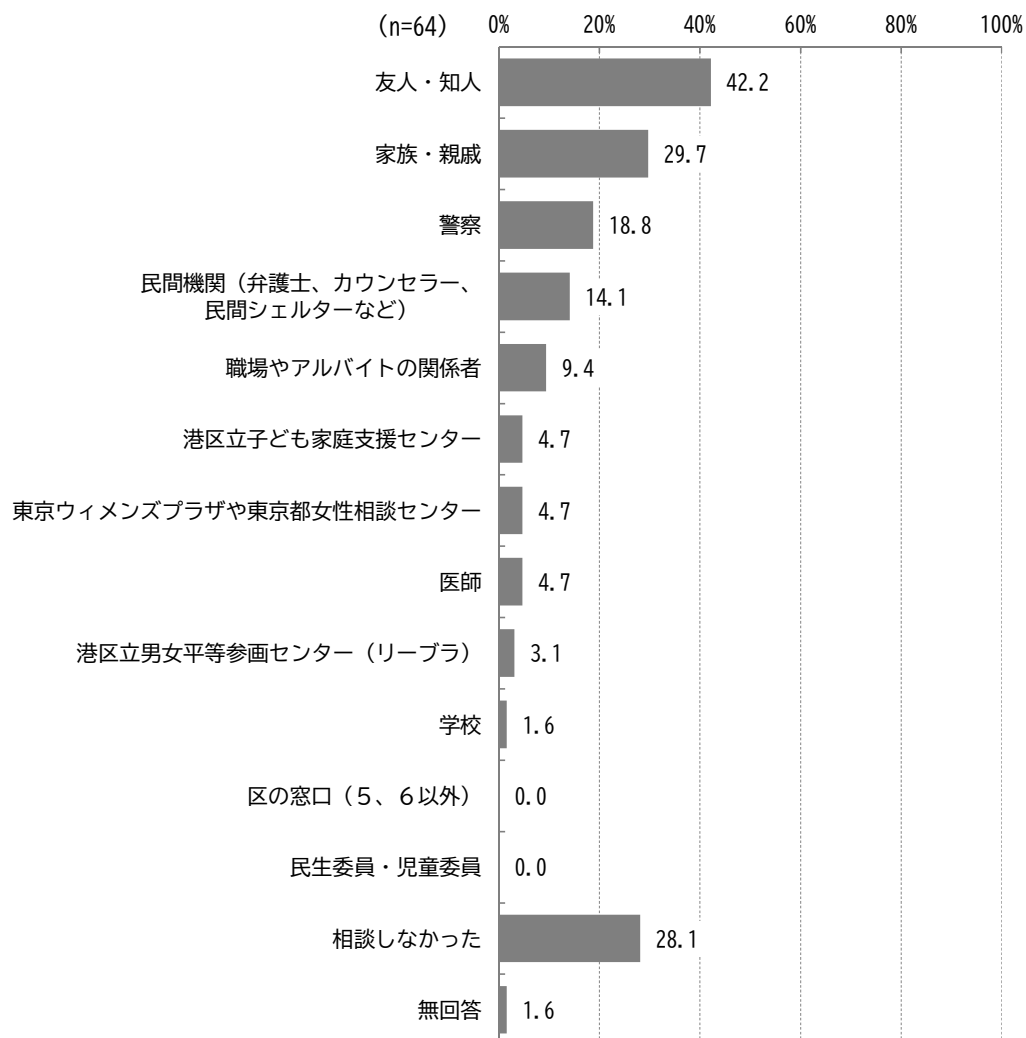
(n=941)



問 24 で配偶者やパートナー、恋人からのDVを受けたことが「ある」と回答した人のみ回答

問 25 誰かに相談しましたか。(〇はいくつでも)

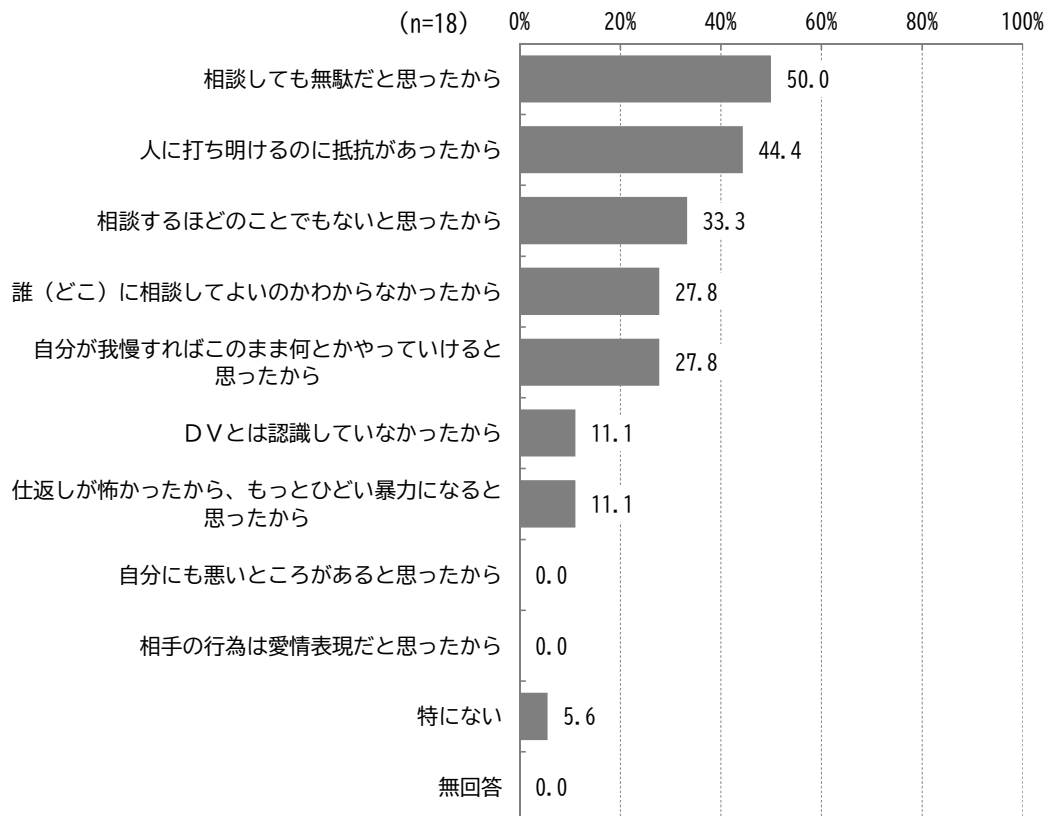
「友人・知人」が42.2%と最も多く、次いで「家族・親戚」が29.7%、「相談しなかった」が28.1%となっています。



問 25 で「相談しなかった」と回答した人のみ回答

問 26 誰（どこ）にも相談しなかったのはなぜですか。（〇はいくつでも）

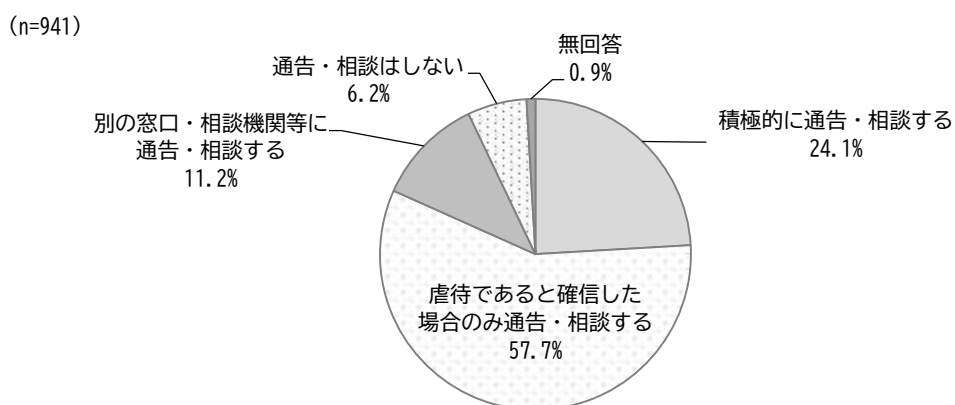
「相談しても無駄だと思ったから」が 50.0%と最も多く、次いで「人に打ち明けるのに抵抗があったから」が 44.4%、「相談するほどのことでもないと思ったから」が 33.3%となっています。



7 児童虐待について

問 27 虐待かもしれないと思った時などに、速やかに児童相談所に通告・相談ができる、港区児童虐待相談ダイヤル（フリーダイヤル）や全国共通の児童相談所虐待対応ダイヤル「189」があります。虐待の疑いのある場面を見たり聞いたりした場合、あなたはどのように対応しますか。（〇は1つ）

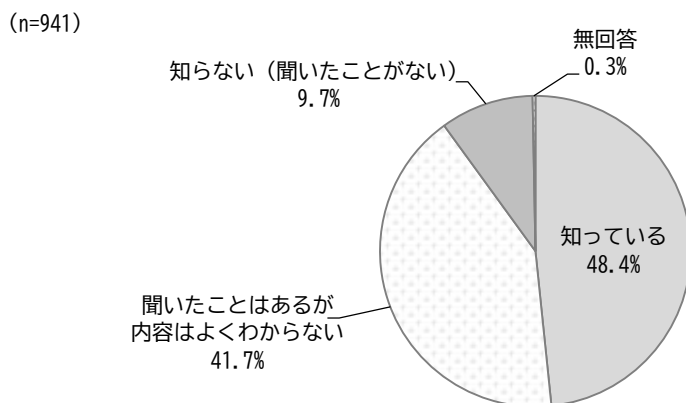
「虐待であると確信した場合のみ通告・相談する」が57.7%と最も多く、次いで「積極的に通告・相談する」が24.1%、「別の窓口・相談機関等に通告・相談する」が11.2%となっています。



8 里親制度について

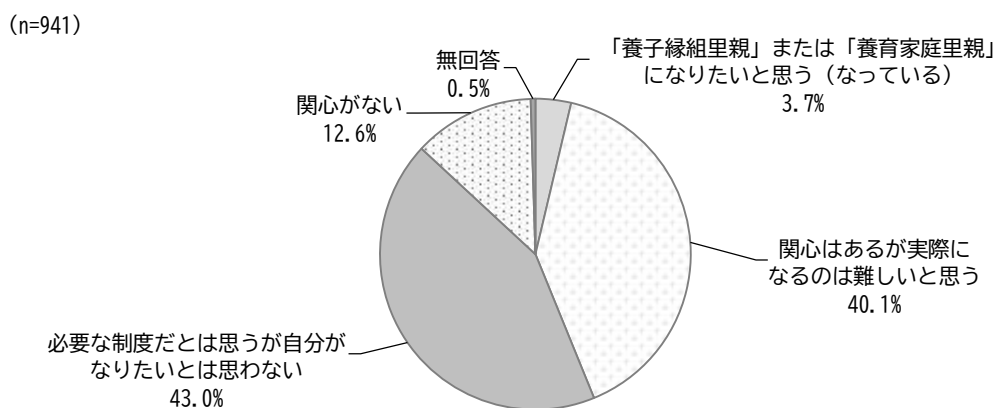
問 28 里親制度とは、親の病気や離婚、虐待などの様々な事情により、親と一緒に暮らすことが困難な子どもたちを自らの家庭に迎え入れ、家庭的な環境で育てる事です。里親制度を知っていますか。(〇は1つ)

「知っている」が48.4%、「聞いたことはあるが内容はよくわからない」が41.7%となっています。



問 29 里親になりたいと思いますか。(〇は1つ)

「必要な制度だとは思いますが自分になりたいとは思わない」が43.0%と最も多く、次いで「関心はあるが実際になるのは難しいと思う」が40.1%、「関心がない」が12.6%となっています。

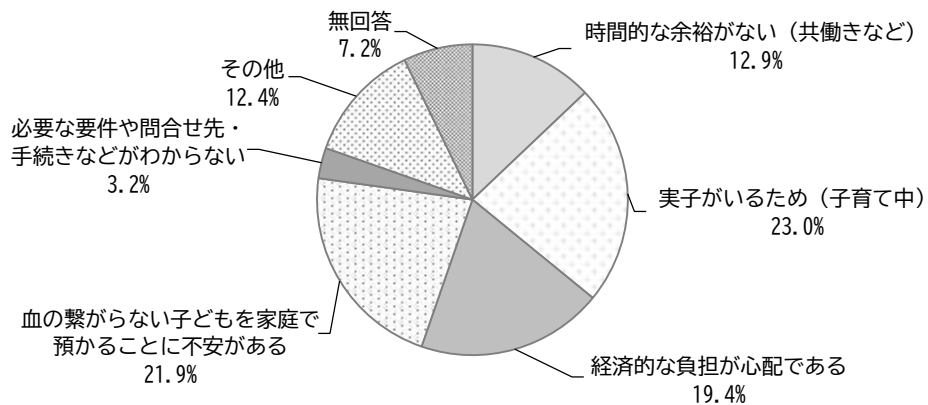


問 29 で「関心はあるが実際になるのは難しいと思う」「必要な制度だとは思いますが自分になりたいとは思わない」と回答した人のみ回答

問 30 難しいと思う・自分になりたいとは思わない理由は何ですか。(〇は1つ)

「実子がいるため(子育て中)」が23.0%と最も多く、次いで「血の繋がらない子どもを家庭で預かることに不安がある」が21.9%、「経済的な負担が心配である」が19.4%となっています。

(n=782)

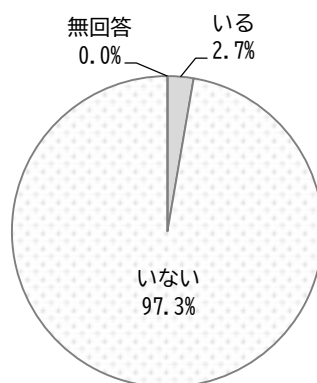


9 ひきこもりについて

問 31 ご家族にひきこもりの状態※にある方がいますか。(回答者ご本人がひきこもりの状態にある場合を含みます)(〇は1つ)

「いない」が97.3%、「いる」が2.7%となっています。

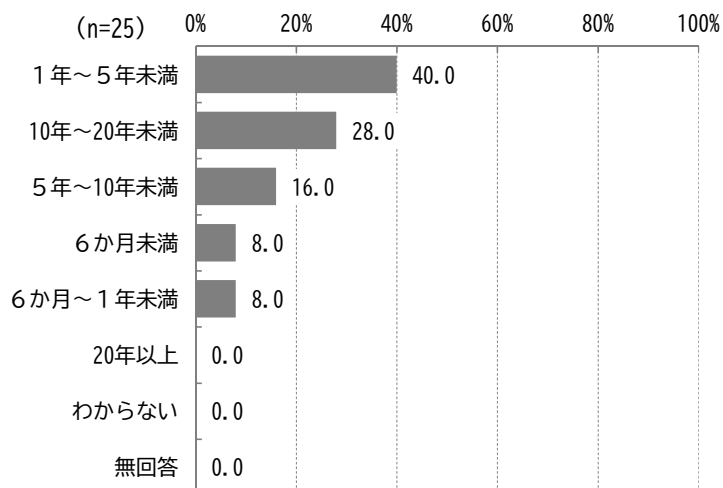
(n=941)



問 31 でご家族にひきこもりの状態にある方が「いる」と回答した人のみ回答

問 32 ひきこもりの状態の期間はどれくらいですか。(○は1つ、ただし2人以上いる場合は人数分)

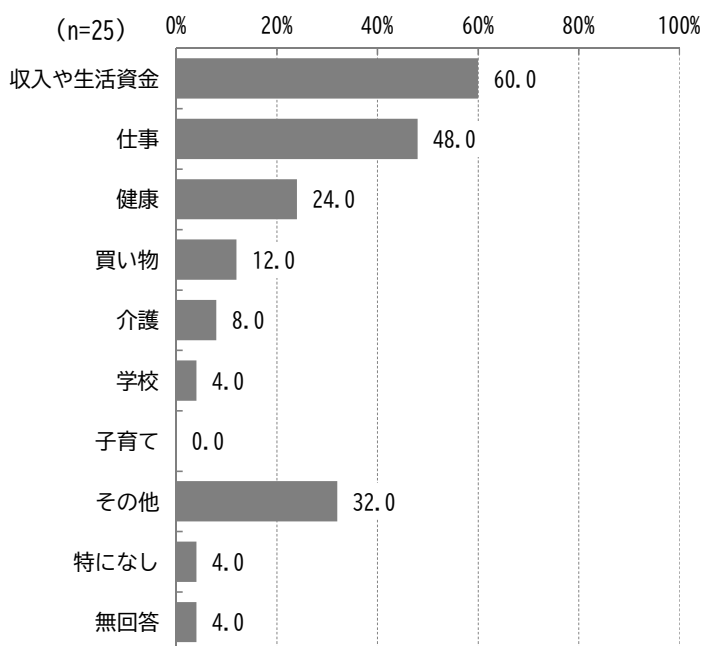
「1年～5年未満」が40.0%と最も多く、次いで「10年～20年未満」が28.0%、「5年～10年未満」が16.0%となっています。



問 31 でご家族にひきこもりの状態にある方が「いる」と回答した人のみ回答

問 33 その方にとって不安は何ですか。(○はいくつでも)

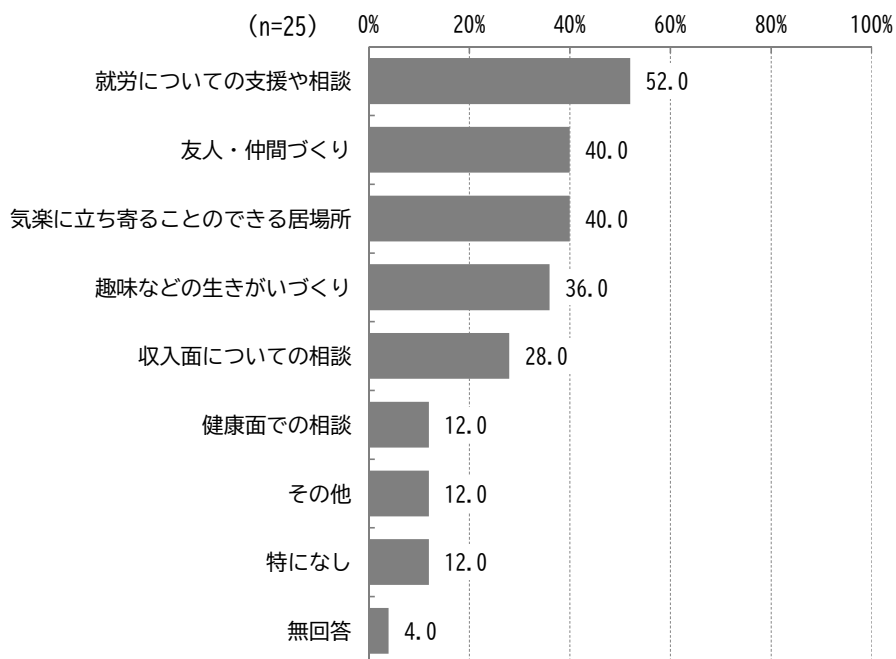
「収入や生活資金」が60.0%と最も多く、次いで「仕事」が48.0%、「その他」が32.0%となっています。



問 31 でご家族にひきこもりの状態にある方が「いる」と回答した人のみ回答

問 34 その方にとって必要なものは何ですか。(〇はいくつでも)

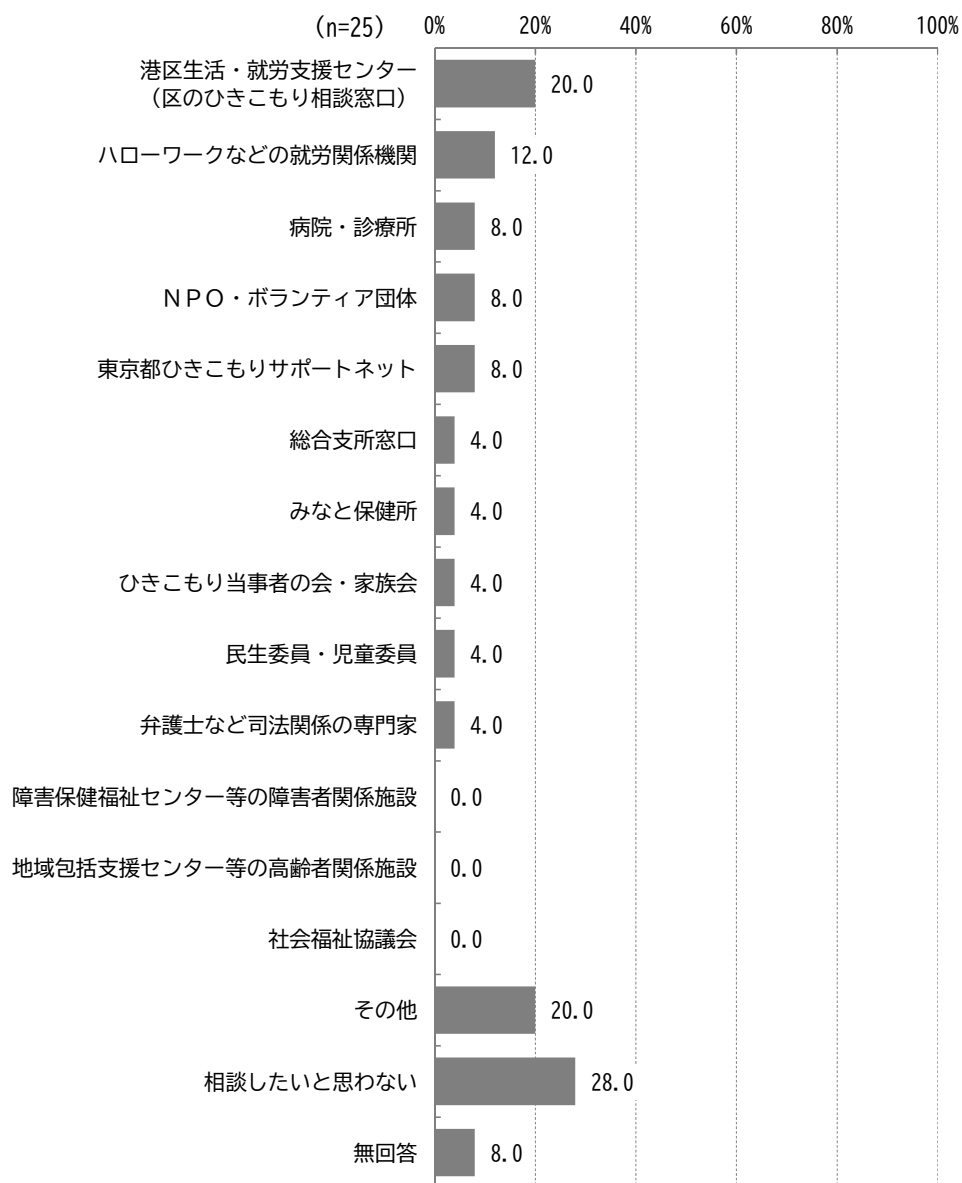
「就労についての支援や相談」が52.0%と最も多く、次いで「友人・仲間づくり」と「気楽に立ち寄ることのできる居場所」が40.0%となっています。



問 31 でご家族にひきこもりの状態にある方が「いる」と回答した人のみ回答

問 35 相談したことがある、又は相談するとしたら、どの機関等に相談したいと思いますか。
(〇はいくつでも)

「相談したいと思わない」が28.0%と最も多く、次いで「港区生活・就労支援センター（区のひきこもり相談窓口）」と「その他」が20.0%となっています。

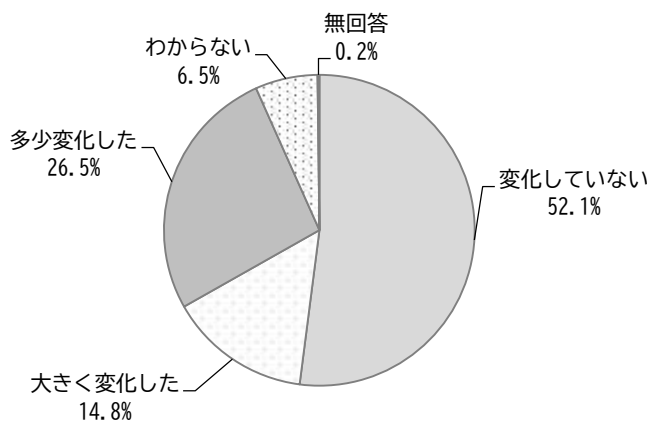


10 コロナ禍における経済面の変化について

問 36 あなたは、経済的な面で、新型コロナウイルス感染症の拡大（2019年12月）以前と比べて変化がありましたか。（○は1つ）

「変化していない」が52.1%、「変化した」（「大きく変化した」と「多少変化した」の合計）が41.3%となっています。

(n=941)

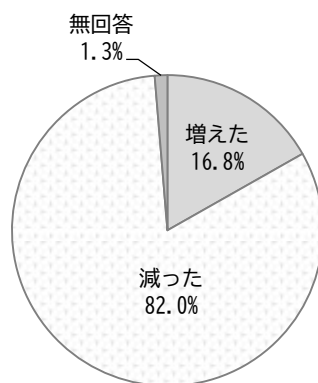


問 36 で「大きく変化した」「多少変化した」と回答した人のみ回答

問 37 あなたの世帯収入は、どのように変化しましたか。（○は1つ）

「減った」が82.0%、「増えた」が16.8%となっています。

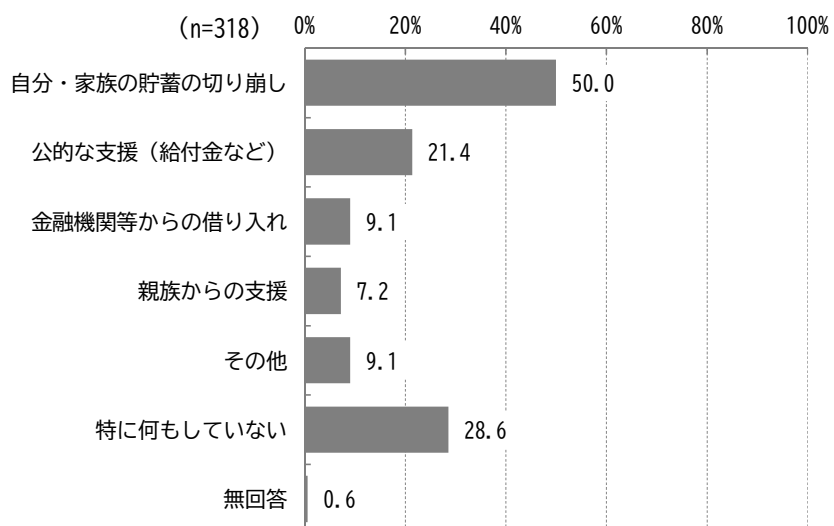
(n=388)



問 37 で「減った」と回答した人のみ回答

問 38 世帯収入が減り、生活を維持するために、どのような対応をしましたか。(〇はいくつでも)

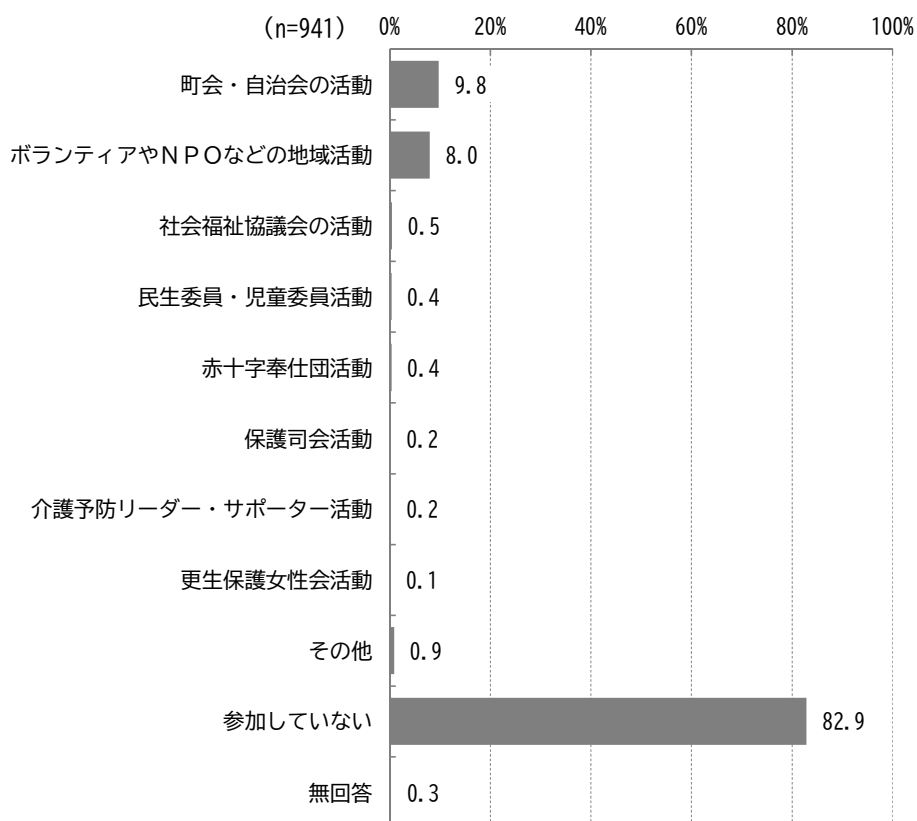
「自分・家族の貯蓄の切り崩し」が 50.0%と最も多く、次いで「特に何もしていない」が 28.6%、「公的な支援（給付金など）」が 21.4%となっています。



11 地域活動・社会活動について

問 39 あなたは、次の地域福祉活動に参加していますか。または参加したことがありますか。
(〇はいくつでも)

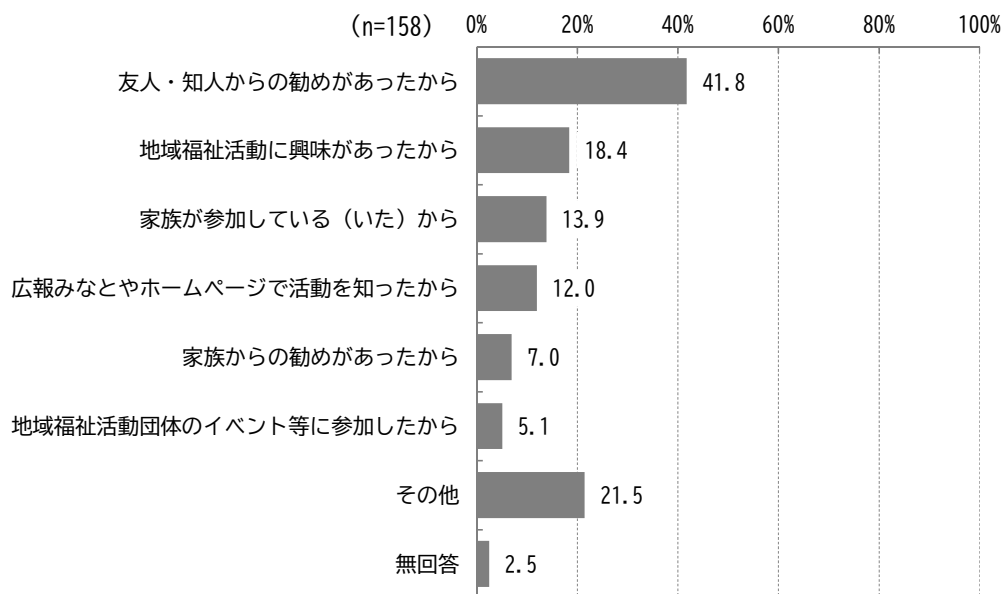
「参加していない」が82.9%と最も多く、次いで「町会・自治会の活動」が9.8%、「ボランティアやNPOなどの地域活動」が8.0%となっています。



問 39 で「参加していない」以外を回答した人のみ回答

問 40 あなたがその活動に参加したきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

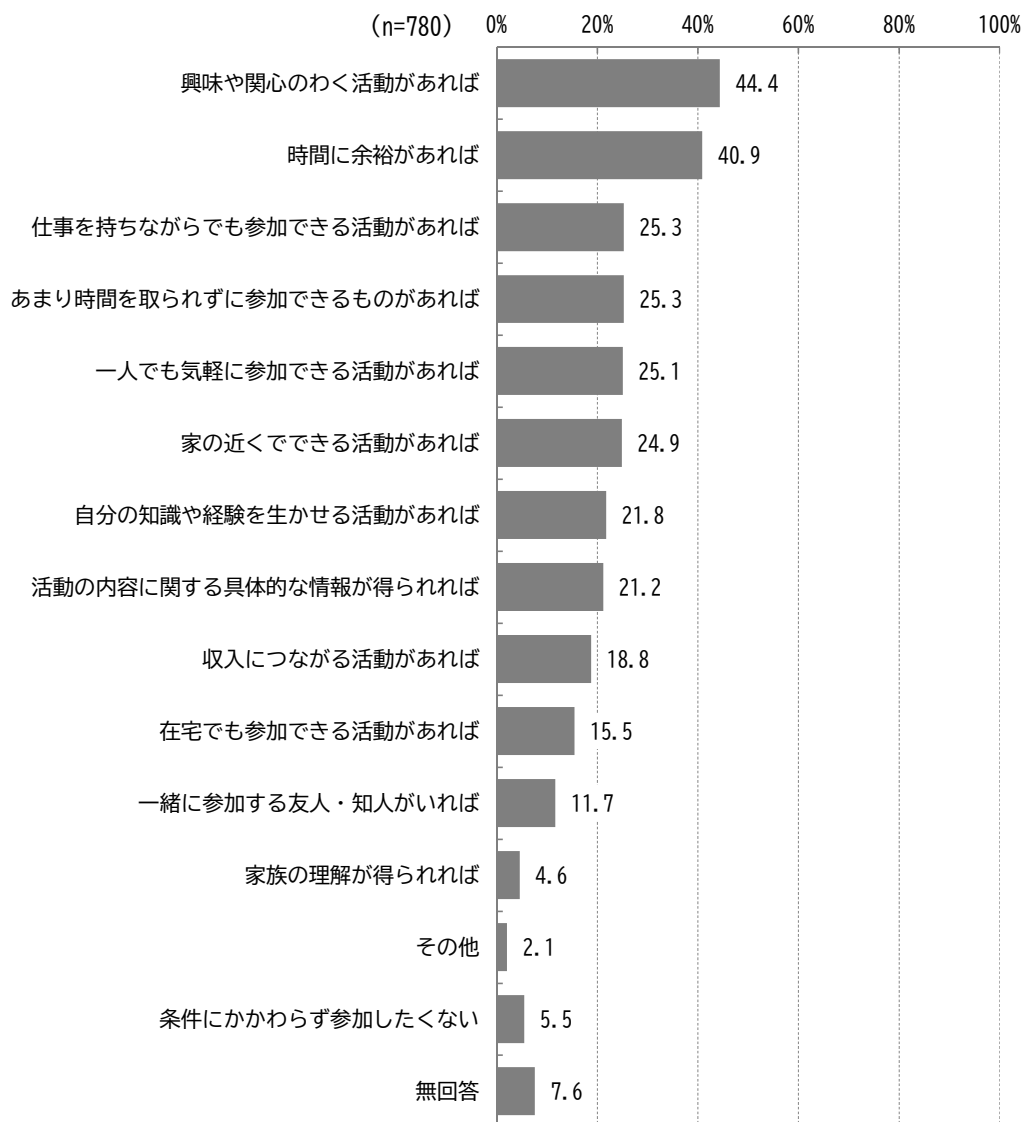
「友人・知人からの勧めがあったから」が41.8%と最も多く、次いで「その他」が21.5%、「地域福祉活動に興味があったから」が18.4%となっています。



問 39 で「参加していない」と回答した人のみ回答

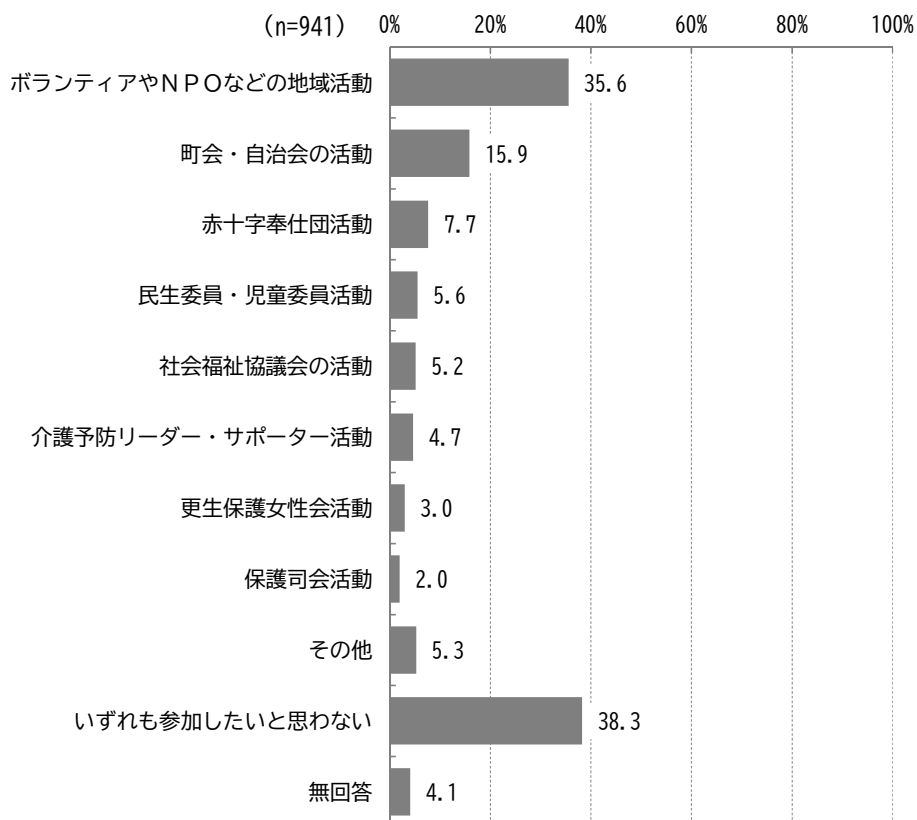
問 41 どのような条件が整えば活動に参加しやすくなりますか。(〇はいくつでも)

「興味や関心のわく活動があれば」が 44.4%と最も多く、次いで「時間に余裕があれば」が 40.9%、「仕事を持ちながらも参加できる活動があれば」と「あまり時間を取られずに参加できるものがあれば」が 25.3%となっています。



問 42 今後も活動したい、または今後参加したいと思う活動はありますか。(〇はいくつでも)

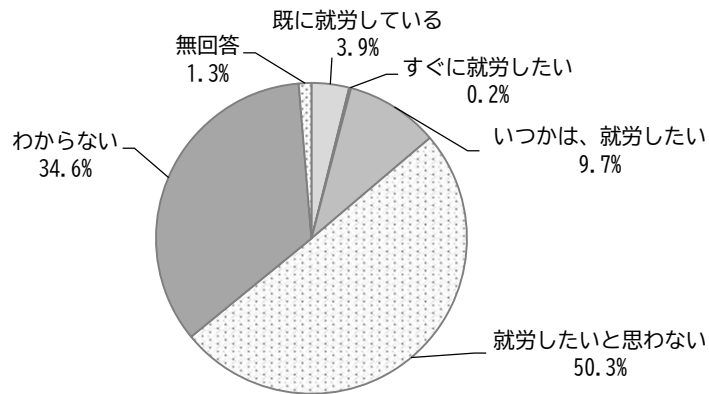
「いずれも参加したいと思わない」が38.3%と最も多く、次いで「ボランティアやNPOなどの地域活動」が35.6%、「町会・自治会の活動」が15.9%となっています。



問 43 お住まいの地域で、保育や介護などの福祉に関わる仕事に就労したいと思いますか。(〇は1つ)

「就労したいと思わない」が50.3%と最も多く、次いで「わからない」が34.6%、「いつかは、就労したい」が9.7%となっています。

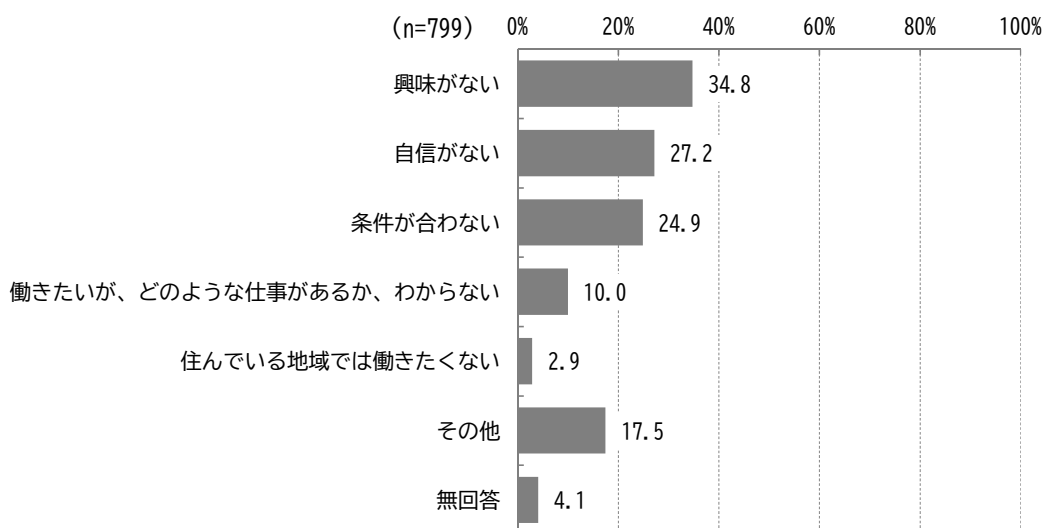
(n=941)



問 43 で「就労したいと思わない」「わからない」と回答した人のみ回答

問 44 その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

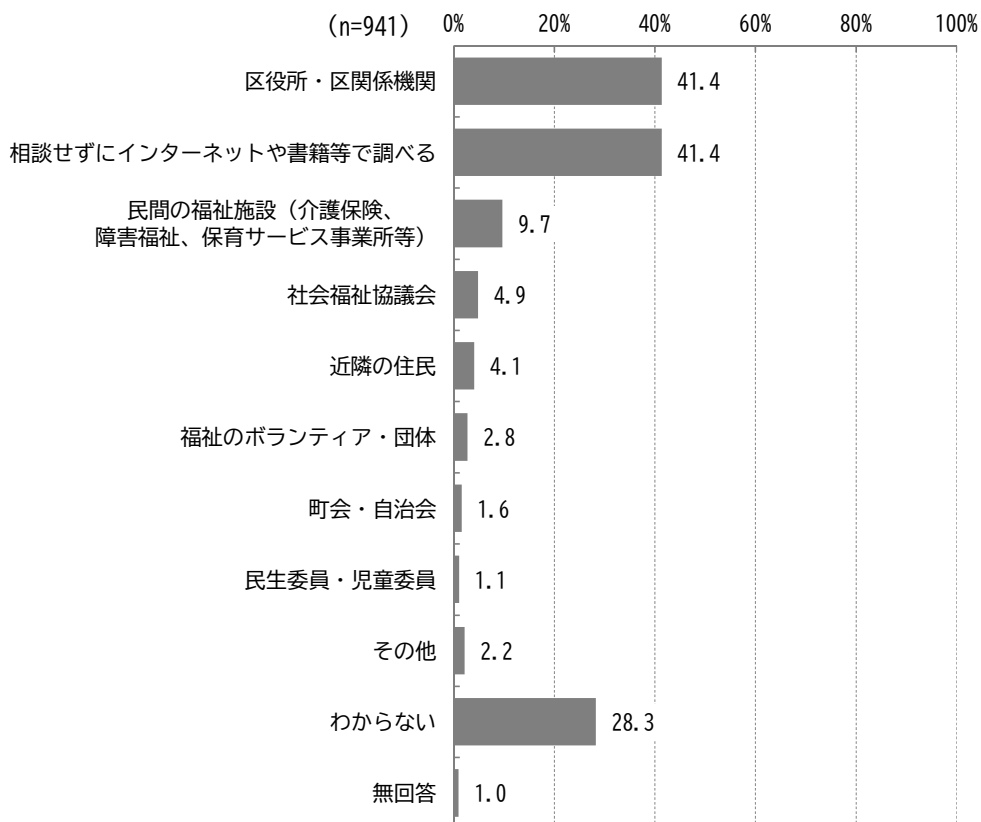
「興味がない」が34.8%と最も多く、次いで「自信がない」が27.2%、「条件が合わない」が24.9%となっています。



12 地域包括ケアについて

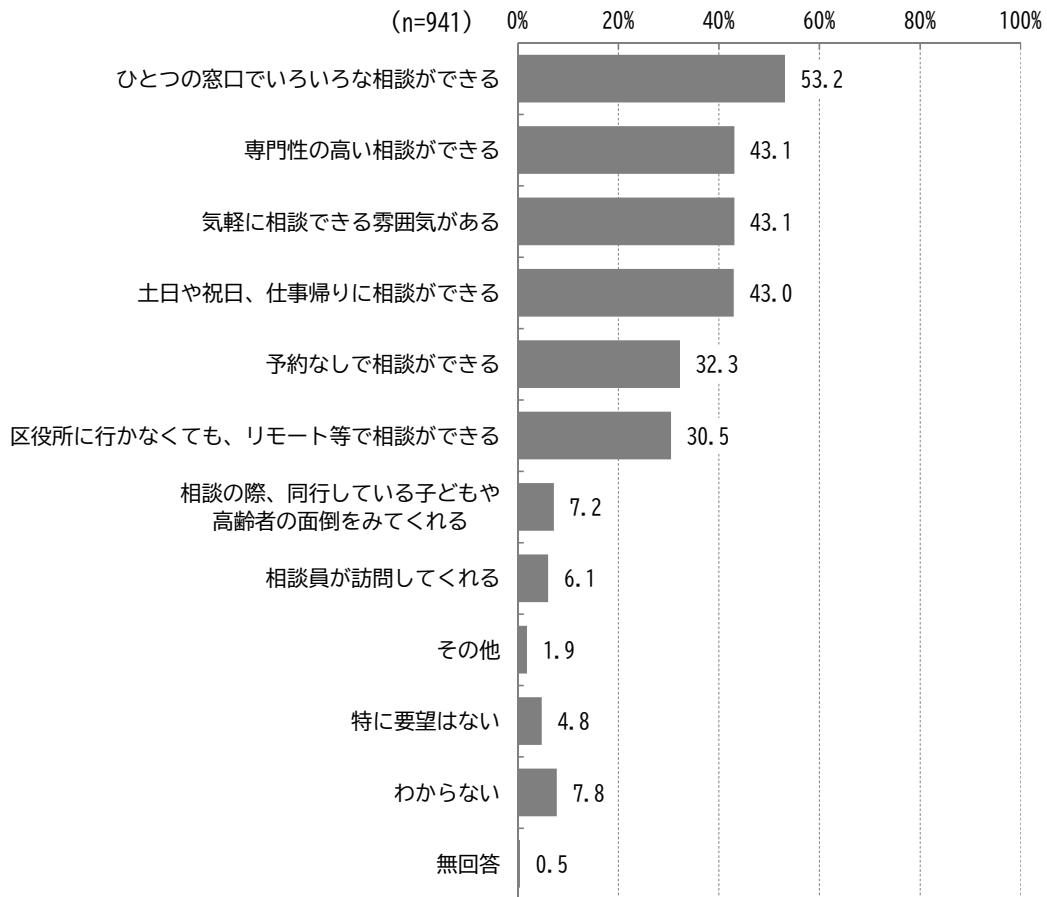
問 45 暮らしの中の福祉（高齢者、障害者、子ども等）に関する困りごとは、福祉総合窓口や社会福祉協議会、福祉施設等に相談できます。困りごとがあった時、家族や友人以外に、相談したい場所（人）はありますか。（〇はいくつでも）

「区役所・区関係機関」と「相談せずにインターネットや書籍等で調べる」が41.4%と最も多く、次いで「わからない」が28.3%となっています。



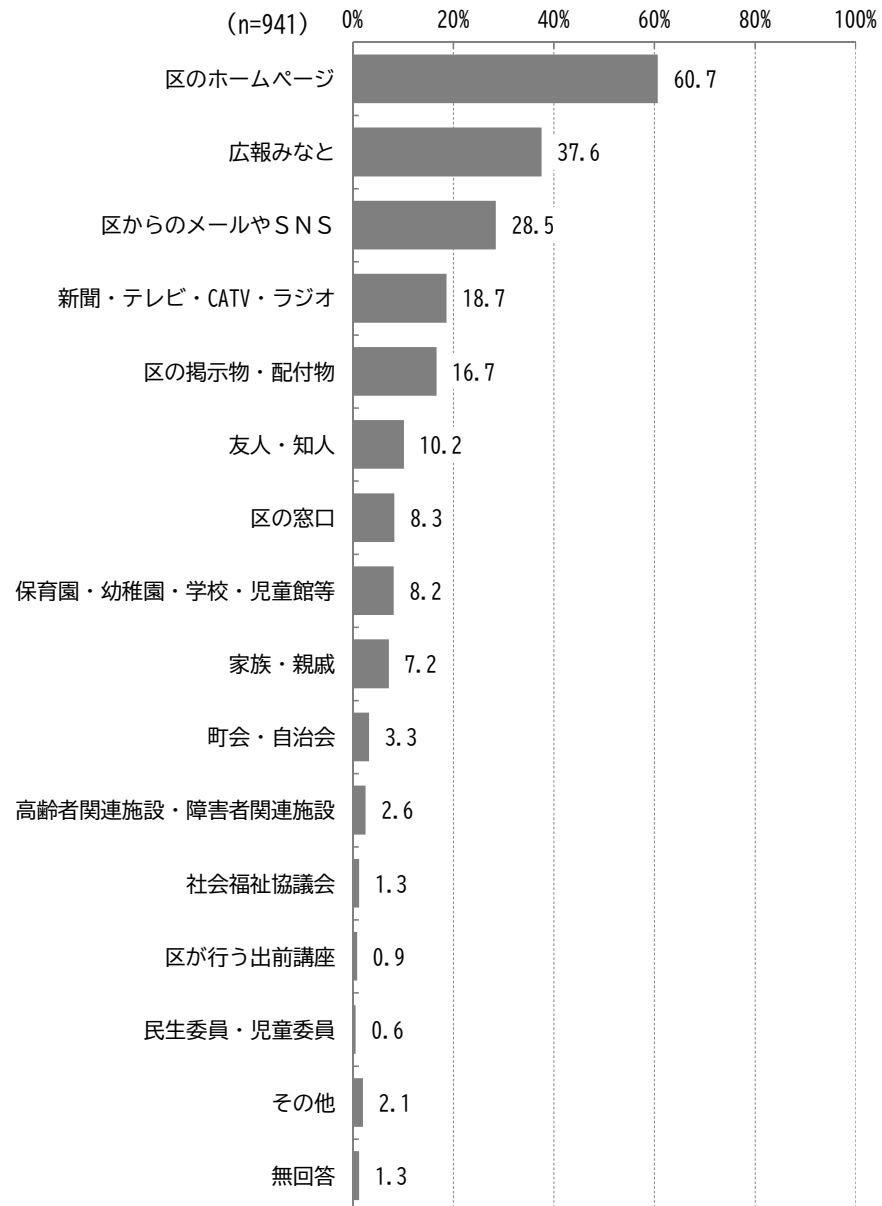
問 46 今後、福祉に関する相談をすることになった時、区の相談機関にはどのようなことを求めますか。(〇はいくつでも)

「ひとつの窓口でいろいろな相談ができる」が53.2%と最も多く、次いで「専門性の高い相談ができる」と「気軽に相談できる雰囲気がある」が43.1%となっています。



問 47 地域包括ケアの取組の周知・啓発のため、各媒体を活用した情報発信を行いますが、今後、区の医療機関と福祉に関する情報を主に何から入手したいですか。または、入手していますか。(〇はいくつでも)

「区のホームページ」が60.7%と最も多く、次いで「広報みなど」が37.6%、「区からのメールやSNS」が28.5%となっています。



問 48 港区の保健福祉サービスに対するご意見・ご要望や、今後充実して欲しいサービス、普段の生活で困っていることなどがありましたら、ご自由にお書きください。

以下のとおり意見がありました。

分類	件数
1 情報提供・相談に関する意見	18 件
2 子育て支援に関する意見・要望	18 件
3 医療・健康施策に関する意見・要望	14 件
4 保健福祉サービス全般への意見・要望	8 件
5 その他	7 件

【主な意見】 ※分類ごとに1～2件掲載

1 情報提供・相談に関する意見

- ・今のところはありませんが、どういうサービスがあるのかわからない所があります。もっと大まかにでもこういうサービスがあるという事を身近にわかるように出来ると良いと思います。
- ・ITリテラシーの底上げで、情報難民の方々へもまんべんなくサービスが行き届くようにしてほしい。

2 子育て支援に関する意見・要望

- ・不妊治療、出産、子育て関係を手厚くしてほしい。特に、港区の場合は国や都の施策が年収制限で受けられない方が大半だと思うので、そうした点を充実させてほしいです。
- ・保育園は大変他の区に比べて充実していますが、就労の有無に関係なく預けられるような社会を目指して更なる拡充を引き続きよろしくをお願いします。

3 医療・健康施策に関する意見・要望

- ・コロナ後遺症専門外来を近所に作ってほしいです。近所の内科では、わからない、別の可能性があるため遠回しにされて、余計な検査料金がかかってしまい負担がかかる。コロナ後遺症をわずらいながら、遠方に診察に行くのが困難。
- ・区の健康診断や歯の検診などの案内をもらっていきたく思っているが中々、特に病気とか歯が痛いなどがないと積極的に行動に移せない。なにかきっかけがあるといいのだけれど。

4 保健福祉サービス全般への意見・要望

- ・他の地域よりは金銭的な補助なども含め充実していると感じており助かっていますが、一方で手続きについて難しさを感じることもあります。制度の乱用は良くないと思いますが、もう少しフレキシビリティのある制度だと利用者も増えるのではないかと感じます。
- ・福祉総合窓口や社会福祉協議会、福祉施設などは、日常生活からは遠い存在であると思います。もっと身近に感じられるようになると有難いです。

5 その他

- ・一人暮らしのコミュニティ支援、何かあったときに、近辺にお互い助け合える存在の構築
- ・区役所の方の受け取る側の教育とともに、一つの窓口で済むような簡単なサービスを願う。

第4章 調査票

ウー01：一般区民

くらしと健康の調査（コロナ禍における保健福祉に関する調査）

— 回答方法 —

■ 回答にあたってのお願い

- ①郵送または②インターネットのいずれか1つの方法でご回答ください。
- 調査は無記名方式で行いますので、調査票や返信用封筒に氏名・住所等を記載しないでください。
- できるだけあて名の方（ご本人）がご回答ください。ただし、ご本人が回答できない場合には、ご家族や身近な方があて名ご本人の立場に立ってご回答ください。

■ 具体的な回答方法

① 郵送による回答方法

- えんぴつやボールペン等でこの調査票に直接ご記入ください。
- 選択式の設問では、あてはまる選択肢の番号に○をご記入ください。
- 選択式ではない設問では、文字や数字を回答欄にご記入ください。
- 「その他」の回答については、（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、令和4年8月19日（金）までに、郵便ポストにご投函ください。（切手不要、氏名等記入不要です）

② インターネットによる回答方法

- パソコン、スマートフォンなどで、以下のURLを入力するか、右記のQRコードを読み込み、調査画面にアクセスしてください。

（URL）<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/mnthknfksu01/u01/>

QRコード



- 以下の「ユーザID」と「パスワード」を全て半角で入力してください。このユーザIDとパスワードは、調査対象者を識別するもので、回答者個人を特定するものではありません。

ユーザID：

パスワード：2328

- 画面に従って、ご回答ください。最後まで入力が完了しましたら、ボタン【確認】をクリックしてください。確認画面への移動後、入力した結果を確認して、問題なければ【登録】をクリックしてください。「ご回答ありがとうございました」と表示されれば終了となります。
- 回答は一時保存ができます。

1 回答者について

問1 性別を教えてください。(〇は1つ)

- | | | |
|------|------|---------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 回答しない |
|------|------|---------|

問2 年齢を教えてください。(〇は1つ)

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1 20歳未満 | 4 30～34歳 | 7 45～49歳 | 10 60歳以上 |
| 2 20～24歳 | 5 35～39歳 | 8 50～54歳 | |
| 3 25～29歳 | 6 40～44歳 | 9 55～59歳 | |

問3 お住まいの地区を教えてください。(〇は1つ)

- | |
|--|
| 1 芝地区(東新橋、新橋、西新橋、虎ノ門、愛宕、浜松町、芝大門、芝公園、海岸1丁目、芝、三田1～3丁目) |
| 2 麻布地区(麻布台、東麻布、麻布永坂町、麻布狸穴町、六本木、麻布十番、元麻布、南麻布、西麻布) |
| 3 赤坂地区(元赤坂、赤坂、南青山、北青山) |
| 4 高輪地区(三田4～5丁目、高輪、白金、白金台) |
| 5 芝浦港南地区(芝浦、海岸2～3丁目、港南、台場) |

問4 職業を教えてください。(〇は1つ)

- | | |
|-----------|--------------------|
| 1 学生 | 6 会社経営・役員 |
| 2 主婦 | 7 会社員・団体職員(正規職員) |
| 3 無職 | 8 会社員・団体職員(正規職員以外) |
| 4 自由業・自営業 | 9 パート・アルバイト・派遣社員等 |
| 5 公務員 | 10 その他(具体的に:) |

問5 あなたの1週間の平均的な労働時間を教えてください。(〇は1つ)

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 1 働いていない | 3 30～39時間 | 5 50～59時間 |
| 2 30時間未満 | 4 40～49時間 | 6 60時間以上 |

問6 現在、どなたと同居しているか教えてください。(〇はいくつでも)

- | | | |
|------------|----------|---------------|
| 1 父親・母親 | 5 兄弟姉妹 | 9 その他(具体的に:) |
| 2 配偶者(夫・妻) | 6 孫 | 10 ひとり暮らし |
| 3 子ども(未婚) | 7 祖父・祖母 | |
| 4 子ども(既婚) | 8 その他の親戚 | |

問7 現在お住まいの住宅を教えてください。(〇は1つ)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 持ち家(一戸建て・集合住宅) | 3 民間賃貸住宅(一戸建て・集合住宅) |
| 2 公営賃貸住宅 | 4 その他(具体的に:) |

問8 あなたの世帯全体における昨年1年間のおおよその年収(税込み)を教えてください。(〇は1つ)
※年金や生活保護等の金額も含まれます。

- | | | | |
|---|-----------------|----|-------------------|
| 1 | 200万円未満 | 6 | 700万円以上 1000万円未満 |
| 2 | 200万円以上 300万円未満 | 7 | 1000万円以上 1500万円未満 |
| 3 | 300万円以上 400万円未満 | 8 | 1500万円以上 2000万円未満 |
| 4 | 400万円以上 500万円未満 | 9 | 2000万円以上 |
| 5 | 500万円以上 700万円未満 | 10 | わからない・答えたくない |

問9 港区での居住年数を教えてください。(〇は1つ)
※港区内で引越し等をされている場合は、合計の年数をお選びください。

- | | | | | | |
|---|----------|---|-----------|---|------------|
| 1 | 1年未満 | 3 | 3年以上5年未満 | 5 | 10年以上20年未満 |
| 2 | 1年以上3年未満 | 4 | 5年以上10年未満 | 6 | 20年以上 |

問10 今後、港区に住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

- | | | | |
|---|----------------|---|---------------|
| 1 | 1年以内に引越す予定である | 4 | 10年くらいは住み続けたい |
| 2 | 2～3年くらいは住み続けたい | 5 | ずっと住み続けたい |
| 3 | 5年くらいは住み続けたい | | |

2 健康づくりについて

問11 あなたの現在の健康状態について、新型コロナウイルス感染症の拡大(2019年12月)以前と比べて変化がありましたか。(〇は1つ)

- | | |
|---|------------------------|
| 1 | 以前と変わらず健康である |
| 2 | 日常生活に支障のない程度の病気・疾患になった |
| 3 | 日常生活にやや支障がある病気・疾患になった |
| 4 | 日常生活に大きな支障がある病気・疾患になった |

問12 新型コロナウイルス感染症の拡大(2019年12月)前後で、健康診査・がん検診の受診行動は変化しましたか。(〇は1つ)

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1 | 変化していない(これまでと変わらず受診している) |
| 2 | 変化していない(もともと受診していない) |
| 3 | 変化した(感染を懸念して受診していない、様子をみている) |
| 4 | 変化した(以前は受診していなかったが受診するようになった) |

問13 コロナ禍で健康診査・がん検診を見送ると、その間に健康状態が悪化し早期治療できないことがあるため、健康診査・がん検診の受診は大切です。どのような支援があれば、コロナ禍でも受診したくなりますか。(〇は1つ)

- | | | | |
|---|-------------------|---|------------------|
| 1 | コロナ禍での受診の必要性を啓発 | 4 | 健診に行く割引券などがもらえる |
| 2 | 医療機関の感染防止対策の徹底、周知 | 5 | その他(具体的に:) |
| 3 | 医療機関で健診専用時間を設ける | 6 | どのような支援があっても行かない |

3 かかりつけ医について

問14 健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師(かかりつけ医)はいますか？(○は1つ)

- | | |
|-------|--------------------|
| 1 いる | 3 今はないがかかりつけ医を持ちたい |
| 2 いない | |

問15 発熱など、新型コロナウイルス感染症が疑われた時の受診先について教えてください。(○は1つ)

- | | |
|--|--|
| 1 かかりつけ医を受診した | |
| 2 かかりつけ医はいるが、検査等に対応していなかったため、他の医療機関を受診した | |
| 3 かかりつけ医がいないため、検査等に対応する医療機関を受診した | |
| 4 その他(具体的に:) | |
| 5 発熱等の症状による受診はしていない | |

4 休日・夜間診療体制について

問16 港区の休日・夜間診療について、実施されていることを知っていますか。また、利用したことはありますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|--|
| 1 知っており、利用したことがある | |
| 2 知っているが、利用したことはない(その理由:) | |
| 3 知らない | |

問17 港区以外の休日・夜間診療を利用したことがありますか。ある場合はその理由を教えてください。(○は1つずつ)

① 成人の利用	② 小児の利用
1 ある(その理由:)	1 ある(その理由:)
2 ない	2 ない

5 感染症について

問18 感染症について、どのような媒体から有益な情報を入手していますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 広報みなど | 5 東京都のホームページ |
| 2 区のホームページ | 6 テレビ |
| 3 区からのメールやSNS | 7 インターネット |
| 4 厚生労働省のホームページ | 8 新聞 |

問19 新型コロナウイルス感染症の流行により、自分の感染予防の方法が変わりましたか。(〇はいくつでも)

- | |
|---------------------------------------|
| 1 手洗いや手指の消毒をこまめにするようになった |
| 2 咳エチケット(マスクの着用等)をするようになった |
| 3 こまめに換気をするようになった |
| 4 人と人との間に距離を取るようになった |
| 5 体温計やパルスオキシメーターを使用して自身の健康観察をするようになった |
| 6 スマートフォンのアプリ等を利用して自身の健康観察をするようになった |
| 7 特に変わらない |

問20 結核は、空気感染で、家族や職場の同僚などの身近な人にうつす病気です。

結核を早期発見するためには、胸部エックス線撮影が有効ですが、胸部エックス線撮影の機会がありますか。(〇は1つ)

- | |
|-------------------------|
| 1 年1回、区民健診や職場の健診で撮影している |
| 2 2~3年に1回撮影している |
| 3 持病などで年に数回撮影している |
| 4 5年以上撮影していない |

問21 エイズ・性感染症の検査を匿名・無料で受けられる場所を知っていますか。(〇はいくつでも)

- | |
|----------------------------------|
| 1 みなど保健所 |
| 2 区内医療機関(AI チェック実施) |
| 3 都内の保健所 |
| 4 東京都新宿東検査・相談室 |
| 5 匿名・無料で受けられることは知っていたが、場所は知らなかった |
| 6 匿名・無料で受けられることを知らなかった |

6 ドメスティックバイオレンス（DV）について

ドメスティックバイオレンス(以下DV)とは、配偶者やパートナーの間での暴力を言い、身体的暴力に限らず、精神的暴力(無視する、交友関係を執拗に詮索する等)・経済的暴力(生活費を渡さない等)・性的暴力(無理矢理アダルトビデオ等を見せる)などあらゆる暴力を含みます。

問22 DVについて、身近に見たり、聞いたりしたことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 家族や友人にDVを受けた当事者がいる | 3 見たことも聞いたこともない |
| 2 家族や友人から相談を受けたことがある | |

問23 配偶者やパートナー、恋人からのDVを受けた場合、次の相談窓口を知っていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|--------|
| 1 港区立子ども家庭支援センター | 4 警察 |
| 2 港区立男女平等参画センター(リーブラ) | 5 知らない |
| 3 東京ウィメンズプラザや東京都女性相談センター | |

問24 配偶者やパートナー、恋人からのDVを受けたことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

問25は、問24で「1」を選んだ方に

問25 誰かに相談しましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1 友人・知人 | 8 東京ウィメンズプラザや東京都女性相談センター |
| 2 家族・親戚 | 9 学校 |
| 3 職場やアルバイトの関係者 | 10 民間機関(弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど) |
| 4 警察 | 11 医師 |
| 5 港区立子ども家庭支援センター | 12 民生委員・児童委員 |
| 6 港区立男女平等参画センター(リーブラ) | 13 相談しなかった |
| 7 区の窓口(5、6以外) | |

問26は、問25で「13」を選んだ方に

問26 誰(どこ)にも相談しなかったのはなぜですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1 誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから | 7 自分が我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから |
| 2 相談するほどのことでもないと思ったから | 8 仕返しが怖かったから、もっとひどい暴力になると思ったから |
| 3 人に打ち明けるのに抵抗があったから | 9 相手の行為は愛情表現だと思ったから |
| 4 相談しても無駄だと思ったから | 10 特にない |
| 5 自分にも悪いところがあると思ったから | |
| 6 DVとは認識していなかったから | |

7 児童虐待について

問27 虐待かもしれないと思った時などに、速やかに児童相談所に通告・相談ができる、港区児童虐待相談ダイヤル(フリーダイヤル)や全国共通の児童相談所虐待対応ダイヤル「189」があります。虐待の疑いのある場面を見たり聞いたりした場合、あなたはどのように対応しますか。(〇は1つ)

- 1 積極的に通告・相談する
- 2 虐待であると確信した場合のみ通告・相談する
- 3 別の窓口・相談機関等に通告・相談する
(子ども家庭支援センター、警察、民生・児童委員、保育園、幼稚園、学校、区役所窓口等)
- 4 通告・相談はしない

8 里親制度について

問28 里親制度とは、親の病気や離婚、虐待などの様々な事情により、親と一緒に暮らすことが困難な子どもたちを自らの家庭に迎え入れ、家庭的な環境で育てることです。里親制度を知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っている
- 2 聞いたことはあるが内容はよくわからない
- 3 知らない(聞いたことがない)

問29 里親になりたいと思いますか。(〇は1つ)

※「養子縁組里親」は養子縁組をして戸籍上も親子となる里親制度で、「養育家庭里親」は一定期間子どもを預かる里親制度です。

- 1 「養子縁組里親」または「養育家庭里親」になりたいと思う(なっている)
- 2 関心はあるが実際になるのは難しいと思う
- 3 必要な制度だとは思いますが自分になりたいとは思わない
- 4 関心がない

問30は、問29で「2」または「3」を選んだ方に

問30 難しいと思う・自分になりたいとは思わない理由は何ですか。(〇は1つ)

- 1 時間的な余裕がない(共働きなど)
- 2 実子がいるため(子育て中)
- 3 経済的な負担が心配である
- 4 血の繋がらない子どもを家庭で預かることに不安がある
- 5 必要な要件や問合せ先・手続きなどがわからない
- 6 その他(具体的に: _____)

9 ひきこもりについて

問31 ご家族にひきこもりの状態※にある方がいますか。(回答者ご本人がひきこもりの状態にある場合を含みます)(○は1つ)

※ひきこもりの状態とは、「社会的参加(就学、就労、家庭外での交遊等)を回避し、原則的には6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしていてもよい)」を指します。

- | | |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

問32～35は、問31で「1」を選んだ方に

問32 ひきこもりの状態の期間はどれくらいですか。(○は1つ、ただし2人以上いる場合は人数分)

- | | |
|------------|-------------|
| 1 6か月未満 | 5 10年～20年未満 |
| 2 6か月～1年未満 | 6 20年以上 |
| 3 1年～5年未満 | 7 わからない |
| 4 5年～10年未満 | |

問33 その方にとって不安は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------|---------------|
| 1 収入や生活資金 | 6 介護 |
| 2 健康 | 7 買い物 |
| 3 仕事 | 8 その他(具体的に:) |
| 4 子育て | 9 特になし |
| 5 学校 | |

問34 その方にとって必要なものは何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1 友人・仲間づくり | 5 収入面についての相談 |
| 2 趣味などの生きがいづくり | 6 気楽に立ち寄ることのできる居場所 |
| 3 健康面での相談 | 7 その他(具体的に:) |
| 4 就労についての支援や相談 | 8 特になし |

問35 相談したことがある、又は相談するとしたら、どの機関等に相談したいと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1 総合支所窓口 | 8 社会福祉協議会 |
| 2 ハローワークなどの就労関係機関 | 9 ひきこもり当事者の会・家族会 |
| 3 港区生活・就労支援センター(区のひきこもり相談窓口) | 10 NPO・ボランティア団体 |
| 4 みなと保健所 | 11 民生委員・児童委員 |
| 5 障害保健福祉センター等の障害者関係施設 | 12 弁護士など司法関係の専門家 |
| 6 病院・診療所 | 13 東京都ひきこもりサポートネット |
| 7 地域包括支援センター等の高齢者関係施設 | 14 その他(具体的に:) |
| | 15 相談したいと思わない |

10 コロナ禍における経済面の変化について

問36 あなたは、経済的な面で、新型コロナウイルス感染症の拡大(2019年12月)以前と比べて変化がありましたか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------|----------|
| 1 変化していない | 3 多少変化した |
| 2 大きく変化した | 4 わからない |

問37は、問36で「2」または「3」を選んだ方に

問37 あなたの世帯収入は、どのように変化しましたか。(〇は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1 増えた | 2 減った |
|-------|-------|

問38は、問37で「2」を選んだ方に

問38 世帯収入が減り、生活を維持するために、どのような対応をしましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 自分・家族の貯蓄の切り崩し | 4 金融機関等からの借り入れ |
| 2 親族からの支援 | 5 その他(具体的に:) |
| 3 公的な支援(給付金など) | 6 特に何もしていない |

11 地域活動・社会活動について

問39 あなたは、次の地域福祉活動に参加していますか。または参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1 町会・自治会の活動 | 6 赤十字奉仕団活動 |
| 2 社会福祉協議会の活動 | 7 介護予防リーダー・サポーター活動 |
| 3 民生委員・児童委員活動 | 8 ボランティアやNPOなどの地域活動 |
| 4 保護司会活動 | 9 その他(具体的に:) |
| 5 更生保護女性会活動 | 10 参加していない |

問40は、問39で「1～9」を選んだ方に

問40 あなたがその活動に参加したきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

- | |
|-------------------------|
| 1 友人・知人からの勧めがあったから |
| 2 家族からの勧めがあったから |
| 3 地域福祉活動に興味があったから |
| 4 地域福祉活動団体のイベント等に参加したから |
| 5 家族が参加している(いた)から |
| 6 広報みなとやホームページで活動を知ったから |
| 7 その他(具体的に:) |

問41は、問39で「10」を選んだ方に

問41 どのような条件が整えば活動に参加しやすくなりますか。(〇はいくつでも)

- | | | |
|----|---------------------------|---|
| 1 | 時間に余裕があれば | |
| 2 | 仕事を持ちながらでも参加できる活動があれば | |
| 3 | 収入につながる活動があれば | |
| 4 | 一人でも気軽に参加できる活動があれば | |
| 5 | 一緒に参加する友人・知人がいれば | |
| 6 | あまり時間を取られずに参加できるものがあれば | |
| 7 | 興味や関心のわく活動があれば | |
| 8 | 家の近くでできる活動があれば | |
| 9 | 在宅でも参加できる活動があれば | |
| 10 | 自分の知識や経験を生かせる活動があれば | |
| 11 | 活動の内容に関する具体的な情報が得られれば | |
| 12 | 家族の理解が得られれば | |
| 13 | その他(具体的に: |) |
| 14 | 条件にかかわらず参加したくない
(その理由: |) |

問42 今後も活動したい、または今後参加したいと思う活動はありますか。(〇はいくつでも)

- | | | | | |
|---|-------------|----|-------------------|---|
| 1 | 町会・自治会の活動 | 6 | 赤十字奉仕団活動 | |
| 2 | 社会福祉協議会の活動 | 7 | 介護予防リーダー・サポーター活動 | |
| 3 | 民生委員・児童委員活動 | 8 | ボランティアやNPOなどの地域活動 | |
| 4 | 保護司会活動 | 9 | その他(具体的に: |) |
| 5 | 更生保護女性会活動 | 10 | いずれも参加したいと思わない | |

問43 お住まいの地域で、保育や介護などの福祉に関わる仕事に就労したいと思いますか。(〇は1つ)

- | | | | | | |
|---|----------|---|------------|---|-------|
| 1 | 既に就労している | 3 | いつかは、就労したい | 5 | わからない |
| 2 | すぐに就労したい | 4 | 就労したいと思わない | | |

問44は、問43で「4」または「5」を選んだ方に

問44 その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- | | | | | |
|---|---------|---|-------------------------|---|
| 1 | 興味がない | 4 | 働きたいが、どのような仕事があるか、わからない | |
| 2 | 自信がない | 5 | 住んでいる地域では働きたくない | |
| 3 | 条件が合わない | 6 | その他(具体的に: |) |

12 地域包括ケアについて

区では、区民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、医療や福祉等に繋げながら、港区ならではの地域包括ケアを推進しています。

現在、各地区総合支所区民課保健福祉係では、高齢者、障害者、子ども等福祉に関する相談に対応していますが、更に推進するために、令和4年8月、福祉に関するあらゆる相談にワンストップで対応する福祉総合窓口を設置します。

問45 暮らしの中の福祉(高齢者、障害者、子ども等)に関する困りごとは、福祉総合窓口や社会福祉協議会、福祉施設等に相談できます。困りごとがあった時、家族や友人以外に、相談したい場所(人)はありますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------|----------------|
| 1 区役所・区関係機関 | 6 町会・自治会 |
| 2 相談せずにインターネットや書籍等で調べる | 7 民生委員・児童委員 |
| 3 民間の福祉施設(介護保険、障害福祉、保育サービス事業所等) | 8 福祉のボランティア・団体 |
| 4 社会福祉協議会 | 9 その他(具体的に:) |
| 5 近隣の住民 | 10 わからない |

問46 今後、福祉に関する相談をすることになった時、区の相談機関にはどのようなことを求めますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1 ひとつの窓口でいろいろな相談ができる | 7 土日や祝日、仕事帰りに相談ができる |
| 2 予約なしで相談ができる | 8 相談の際、同行している子どもや高齢者の面倒をみってくれる |
| 3 専門性の高い相談ができる | 9 その他(具体的に:) |
| 4 区役所に行かなくても、リモート等で相談ができる | 10 特に要望はない |
| 5 相談員が訪問してくれる | 11 わからない |
| 6 気軽に相談できる雰囲気がある | |

問47 地域包括ケアの取組の周知・啓発のため、各媒体を活用した情報発信を行います。今後、区の医療機関と福祉に関する情報を主に何から入手したいですか。または、入手していますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 広報みなと | 8 高齢者関連施設・障害者関連施設 |
| 2 区のホームページ | 9 保育園・幼稚園・学校・児童館等 |
| 3 区の掲示物・配付物 | 10 社会福祉協議会 |
| 4 区からのメールやSNS | 11 町会・自治会 |
| 5 区の窓口 | 12 民生委員・児童委員 |
| 6 区が行う出前講座 | 13 友人・知人 |
| 7 新聞・テレビ・CATV・ラジオ | 14 家族・親戚 |
| | 15 その他(具体的に:) |

問48 港区の保健福祉サービスに対するご意見・ご要望や、今後充実して欲しいサービス、普段の生活で困っていることなどがありましたら、ご自由にお書きください。



以上でアンケートは終わりです。
調査へご協力いただきありがとうございました。

区 の 木



ハナミズキ

区 の 花



アジサイ



バラ



港区のマークは、昭和24年7月30日に制定しました。旧芝・麻布・赤坂の3区を一丸とし、その象徴として港区の頭文字である「み」を力強く、図案化したものです。

刊行物発行番号 2022235-3711

くらしと健康の調査
—コロナ禍における保健福祉に関する調査—
報告書
(一般区民調査)

令和5年(2023年)3月発行

発行・編集 港区保健福祉支援部保健福祉課
港区芝公園一丁目5番25号
03-3578-2111(代表)



港区は、みどりの保全とごみの減量に努めています。
この印刷物は、古紙を活用した再生紙を使用しています。